

乳幼児期の非認知能力についての意識および取り組みに関する調査

—園・保育者調査 集計結果（速報版）—

東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター

令和3（2021）年1月



目次

1. 調査の概要	5
2. 調査の目的	6
3. 調査の方法	6
4. 倫理的配慮	6
4.1. 個人情報の保護と情報の取り扱い	6
4.2. 回答の任意性	6
4.3. その他	6
5. 調査の内容	7
5.1. 回答者自身の基本情報	7
5.2. 回答者が所属する園（施設）の基本情報	7
5.3. 「非認知能力」に関する理解・重視度と園での研修や活動の取り組み	7
5.4. 子どもの資質・能力についての意識	7
5.5. 「非認知能力」に含まれる5つの資質・能力についての重視度や取り組み	8
6. 回答者の属性	10
6.1. 回答者の年齢・性別	10
6.2. 回答者が所属する園（施設）の種別	12
6.3. 回答者が所属する園（施設）の設置主体	14
6.4. 園（施設）の所在地	15
6.5. 回答者の園（施設）での役職	16
6.6. 回答者の担当クラス	17
7. 主な結果	19
7.1. 「非認知能力」についての理解	19
7.2. 「非認知能力」の重視度	20
7.3. 「非認知能力」についての園（施設）での取り組み	21
7.3.1. 園（施設）での取り組みの有無	21
7.3.2. 園（施設）での取り組みをしない理由	22
7.4. 「非認知能力」についての研修や勉強会の実施・参加	24
7.4.1. 研修や勉強会の実施・参加の有無	24
7.4.2. 研修や勉強会の実施・参加をしない理由	25
7.5. 子どもの資質・能力を育むための園（施設）での取り組み	27

7.5.1.	資質・能力を育むためのプログラムや取り組みの実施	27
7.6.	資質・能力の中で特に大切にしたい力	31
7.6.1.	18の資質・能力の中で特に大切にしたい力	31
7.6.2.	「認知能力」と関連する7つの資質・能力の中で特に大切にしたい力	34
7.6.3.	「非認知能力」と関連する9つの資質・能力の中で特に大切にしたい力	36
7.6.4.	「10の姿」の中で特に大切にしたい力	38
7.7.	個々の「非認知能力」の重視度・プログラムや教材へのニーズ	40
7.7.1.	5つの「非認知能力」の重視度	41
7.7.2.	プログラムや活動への関心	43
7.7.3.	園の中での取り組み・活動・関わり方の工夫	45
7.7.4.	教材やプログラムに対するニーズ	47
7.7.5.	子どもの興味・関心に関するツール・サービスに対するニーズ	54
図 1.	回答者の性別 (%)	10
図 2.	回答者の年齢	10
図 3.	回答者の勤務年数	11
図 4.	回答者の現在の園(施設)での勤務年数	11
図 5.	所属する園(施設)の種別 (%)	12
図 6.	園(施設)の設置主体 (%)	14
図 7.	回答者の役職 (%)	16
図 8.	回答者の担当クラス (%)	17
図 9.	「非認知能力」という言葉をご存知ですか? (%)	19
図 10.	「非認知能力」をどのくらい重視されていますか? (%)	20
図 11.	「非認知能力」を育むための具体的な実践や取り組みをされていますか? (%)	21
図 12.	「非認知能力」を育むための取り組みをしていない理由 (%)	22
図 13.	「非認知能力」についての研修や勉強会などの実施・参加をしていますか? (%)	24
図 14.	「非認知能力」についての研修や勉強会などの実施・参加をしない理由 (%)	25
図 15.	資質・能力を育むためのプログラムや取り組みの実施 (%)	28
図 16.	18の資質・能力の中で特に大切にしたい力(選択率(%))	32
図 17.	「認知能力」と関連する7つの資質・能力の中で特に大切にしたい力(選択率(%))	34
図 18.	「非認知能力」と関連する9つの資質・能力の中で特に大切にしたい力(選択率(%))	36
図 19.	「10の姿」の中で特に大切にしたい力(選択率(%))	38
図 20.	お子さんにとって、この力はどのくらい大切だと感じますか? (%)	41

図 21. こうした力を伸ばすためのプログラムや活動について調べたり聞いたりしたことはありますか？ (%)	_____	43
図 22. こうした力を伸ばすための具体的な取り組み・活動・関わり方の工夫を園の中でしていますか？ (%)	_____	45
図 23. (1)「こうした力の育ちの見とり方について学べる，先生向けの学習コンテンツ」を使いたいと思いますか？ (%)	_____	48
図 24. (2)「こうした力の育ちを助ける具体的な言葉かけの方法について学べる，先生向けの学習コンテンツ」を使いたいと思いますか？ (%)	_____	50
図 25. (3)「こうした力の育ちを助ける具体的な活動案／カリキュラム」を使いたいと思いますか？ (%)	_____	52
図 26. 次のようなツールやサービスがあったら園の中で使いたいと思いますか？ (%)	_____	54
表 1. 今回の調査で取り上げた 18 の資質・能力	_____	8
表 2. 特に取り上げた非認知能力に含まれる 5 つの要素	_____	9
表 3. 所属する園（施設）の種別（集計値）	_____	13
表 4. 園（施設）の設置主体（集計値）	_____	14
表 5. 園（施設）の所在地域（集計値）	_____	15
表 6. 回答者の役職（集計値）	_____	16
表 7. 回答者の担当クラス（集計値）	_____	18
表 8. 「非認知能力」という言葉をご存知ですか？（集計値）	_____	19
表 9. 「非認知能力」をどのくらい重視されていますか？（集計値）	_____	20
表 10. 「非認知能力」を育むための具体的な実践や取り組みをされていますか？（集計値）	_____	21
表 11. 「非認知能力」を育むための取り組みをしていない理由（集計値）	_____	23
表 12. 「非認知能力」についての研修や勉強会などの実施・参加をしていますか？（集計値）	_____	24
表 13. 「非認知能力」についての研修や勉強会などの実施・参加をしない理由（集計値）	_____	26
表 14. 資質・能力を育むためのプログラムや取り組みの実施（集計値）	_____	29
表 15. 18 の資質・能力の中で特に大切にしたい力（集計値）	_____	33
表 16. 「認知能力」と関連する 7 つの資質・能力の中で特に大切にしたい力（集計値）	_____	35
表 17. 「非認知能力」と関連する 9 つの資質・能力の中で特に大切にしたい力（集計値）	_____	37
表 18. 「10 の姿」の中で特に大切にしたい力	_____	39
表 19. お子さんにとって，この力はどのくらい大切だと感じますか？（集計値）	_____	42
表 20. こうした力を伸ばすためのプログラムや活動について調べたり聞いたりしたことはありますか？（集計値）	_____	44
表 21. こうした力を伸ばすための具体的な取り組み・活動・関わり方の工夫を園の中でしていますか？（集計値）	_____	46

表 22. (1) 「こうした力の育ちの見とり方について学べる，先生向けの学習コンテンツ」を使いたいと思いますか？（集計値） _____	49
表 23. (2) 「こうした力の育ちを助ける具体的な言葉かけの方法について学べる，先生向けの学習コンテンツ」を使いたいと思いますか？（集計値） _____	51
表 24. (3) 「こうした力の育ちを助ける具体的な活動案／カリキュラム」を使いたいと思いますか？（集計値） _____	53
表 25. 次のようなツールやサービスがあったら園の中で使いたいと思いますか？（集計値） _	55

1. 調査の概要

東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）は、凸版印刷株式会社と共同し、幼児の非認知能力を育成する保育実践の研究を行っております。

この調査は、その一環として、乳幼児期（0～6歳）のお子さんを持つ保護者の皆様と、保育・幼児教育に携わる園（施設）の先生・職員の皆様を対象に「乳幼児期の非認知能力についての意識および取り組み」の実態について把握することを目的として実施いたしました。

調査は2020年9月～11月にかけてWeb調査形式で行い、保護者の皆様を対象とした調査では計1,769件、園・保育者の皆様を対象とした調査では計409件のご回答を頂きました。

本報告書は、園・保育者を対象とした調査の報告書（速報版）です。保護者を対象とした調査につきましては、別にあります。保護者を対象とした調査の報告書（速報版）をご参照ください。

【園・保育者を対象とした調査の内容】

- (1) 回答者自身の基本情報
- (2) 回答者が所属する園（施設）の基本情報
- (3) 「非認知能力」に関する理解・重視度と園での研修や活動の取り組み
- (4) 子どもの資質・能力についての意識
- (5) 「非認知能力」に含まれる5つの資質・能力についての重視度や取り組み

ご多用の中、調査にご協力くださった皆様に深く御礼申し上げます。

2. 調査の目的

この調査は、これからの保育・幼児教育において、「非認知能力」を含む乳幼児期の多様な心の育ちをどのように支えることができるのか検討するための根拠となる材料（エビデンス）を広く社会で共有するために、乳幼児期（0～6歳）の子どもの保育・幼児教育に携わる園（施設）の運営者、園・施設長、保育士・教諭の意識や考え、取り組みの実態について把握することを目的としています。

3. 調査の方法

2020年9月～11月にかけて、Google フォームを利用した Web 調査形式により、園・保育者を対象とした質問紙調査を実施しました。

保育・幼児教育に携わる園（施設）の運営者、園長・施設長、保育士・教諭、職員に対して、機縁法による回答の依頼を行い、得られた回答は計 409 件でした。

本報告書では、収集された 409 件の回答全てを集計対象としました。なお、回答者の所属する園（施設）の特定や紐付けは行なっておりませんので、同一園（施設）に複数の回答者が所属しているという可能性に留意してください。

4. 倫理的配慮

4.1. 個人情報保護と情報の取り扱い

アンケートフォームの冒頭にて、①匿名のアンケートであり、個人を特定するような情報は収集されないこと、②本調査の結果は、東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）の WEB ページ（<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/>）に掲載し、その他の学会・論文やシンポジウムで発表する可能性があること、③データはこの研究成果の発表後少なくとも 10 年間、東京大学発達保育実践政策学センター（Cedep）内で保存すること、について記載いたしました。

4.2. 回答の任意性

アンケートフォームの冒頭にて、①このアンケートへの回答は任意であり、答えたくない場合は、回答を止めても良いこと、②回答を途中で止めたからといって不利益を被ることはないこと、について記載いたしました。

4.3. その他

この調査は、東京大学の倫理規定に則って実施するものであり、東京大学倫理審査専門委員会および教育学研究科長の承認を得て調査を実施いたしました。

5. 調査の内容

園・保育者を対象とした調査項目は以下のような内容であり、最大で60項目の質問に回答していただきました。

5.1. 回答者自身の基本情報

①回答者の性別, ②年齢, ③勤務年数, ④現在の園での勤務年数, ⑤現在の園(施設)での役職, ⑥担当クラスの有無, ⑦(担当クラスがある場合)担当クラスの子どもの年齢と人数についてお尋ねしました。

5.2. 回答者が所属する園(施設)の基本情報

①回答者が所属する園(施設)の種別, ②設置主体, ③園(施設)の所在する都道府県, ④定員数, ⑤実員数についてお尋ねしました。

5.3. 「非認知能力」に関する理解・重視度と園での研修や活動の取り組み

①「非認知能力」について知っているか, ②(知っている場合)「非認知能力」に含まれると考える具体的な資質・能力の内容, ③「非認知能力」の重視度, ④園での子どもの「非認知能力」を育むための具体的な働きかけや工夫の有無, ⑤(働きかけや工夫をしている場合)具体的な内容, ⑥(働きかけや工夫をしていない場合)その理由についてお尋ねしました。

また, 回答者の役職が「理事・運営」「園長・施設長」「副園長・副施設長」「主任または保育リーダー」に該当する場合, ①「非認知能力」についての研修や勉強会などを園で実施したり, 他所での研修や勉強会などに園の職員を参加させたりしているか, ②(研修等の実施・参加をしている場合)具体的な内容, ③(研修等の実施・参加をしていない場合)その理由についてお尋ねしました。

回答者の役職が「保育士・教諭」「保育補助」「その他の役職」の場合は, ①「非認知能力」についての研修や勉強会などを園で実施したり, 他所での研修や勉強会などに参加したりしているか, ②(研修等の実施・参加をしている場合)具体的な内容についての自由記述, ③(研修等の実施・参加をしていない場合)その理由についてお尋ねしました。

5.4. 子どもの資質・能力についての意識

認知能力(児童期以降の各教科の学力)に関連する力, 非認知能力に関連する力, 身体・運動能力, 芸術的感性・表現力を含む18の資質・能力(表1)について, ①それぞれの資質・能力を育むためのプログラムや取り組みを園で実施しているか, ②重視する資質・能力(18の資質・能力の中で特に大切にしたい力(上位5つ)／認知能力の中で特に大切にしたい力(上位3つ)／非認知能力の中で特に大切にしたい力(上位3つ)／「10の姿」の資質・能力の中で特に大切にしたい力(上位3つ)), ③園全体で大切にしてい

る目標や活動方針，④回答者自身が特に大切にしている目標や活動方針についてお尋ねしました。

表 1. 今回の調査で取り上げた 18 の資質・能力

認 知 能 力 に 関 連	(1) 文字を読んだり書いたりする力
	(2) 言葉で伝えたり聞いて理解したりする力
	(3) 数, 図形, 記号などを使ったり理解したりする力
	(4) 理科や科学に関する知識と理解力
	(5) 社会の仕組みや地理・歴史に関する知識と理解力
	(6) 英語など外国語の語学力
	(7) プログラミングなど情報処理に関わる力
	(8) からだを上手に使うことができる運動能力や健康に資する体力
	(9) お絵かきや音楽などの表現力・芸術的感性
非 認 知 能 力 に 関 連	(10) 自分自身を好きだと思える心 (自尊感情)
	(11) 物事に興味・関心を持ち, 自分から進んで取り組む力 (興味・内発的動機づけ)
	(12) 自分にはできないと決めつけず, 自信をもって取り組む力 (自己効力感)
	(13) 物事を最後までやり抜く粘り強さ (忍耐力・持続性)
	(14) 相手の気持ちを読み取ったり, 自分の気持ちを上手に表現したりする力 (感情知性・EI)
	(15) 困っている人に共感したり, 助けてあげようとしたりする思いやりの心 (共感・向社会性)
	(16) 大切な目標のために目先のやりたいことを一旦がまんしたり, 固執せず柔軟に対応したりする力 (セルフコントロール・自制心)
	(17) 生活習慣や社会的ルール, 礼儀正しさを守ろうとする心 (規範意識・道徳性)
	(18) 他の人と協力して何かをやり遂げる力 (協同性・協働性)

注) 表中の () 内は関連する非認知能力を示します。

5.5. 「非認知能力」に含まれる 5 つの資質・能力についての重視度や取り組み

「非認知能力」に含まれる資質・能力のうち, 保護者を対象とした調査で取り上げたのと同様の 5 つ ((a)内発的動機づけ, (b)自己効力感, (c)感情知性, (d)向社会性, (e)セルフコントロール) (表 2) について, ①それぞれの重視度, ②その力を伸ばすためのプログラムや活動への関心, ③その力を伸ばすための園での具体的な取り組み・活動・関わり方の工夫の有無, ④ (取り組みをしている場合) 具体的な内容, ⑤ (取り組みをしていな

い場合) その理由, ⑥その力の育成をサポートする教材やプログラムに対するニーズ, ⑦
(教材やプログラムを利用したいと思わない場合) その理由についてお尋ねしました。

表 2. 特に取り上げた非認知能力に含まれる 5つの要素

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(a) 内発的動機づけ
(物事に興味・関心を持ち, 自分で決めて自分から進んで物事に取り組む力)</p> <p>(b) 自己効力感
(自分にはできないと決めつけず, 自信をもって物事に取り組む力)</p> <p>(c) 感情知性
(相手の気持ちを読み取ったり, 自分の気持ちを上手に表現したりする力)</p> <p>(d) 向社会性
(困っている人に共感したり, 助けてあげようとしたりする思いやりの心)</p> <p>(e) セルフコントロール
(大切な目標のために目先のやりたいことを一旦がまんしたり, 固執せず柔軟に対応したりする力)</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

6. 回答者の属性

6.1. 回答者の年齢・性別

園・保育者調査で得られた全 409 件の回答を集計対象としました。回答者は女性 296 名、男性 113 名（図 1），回答者の平均年齢は 50.9 歳（ $SD=11.5$ ，レンジ 21~80 歳，回答なし 3 名）（図 2），平均勤務年数は 22.3 年（ $SD=12.2$ ，レンジ 1~51 年，回答なし 2 名）（図 3），現在の園での平均勤務年数は 14.1 年（ $SD=11.7$ ，レンジ 1~50 年，回答なし 2 名）（図 4）でした。

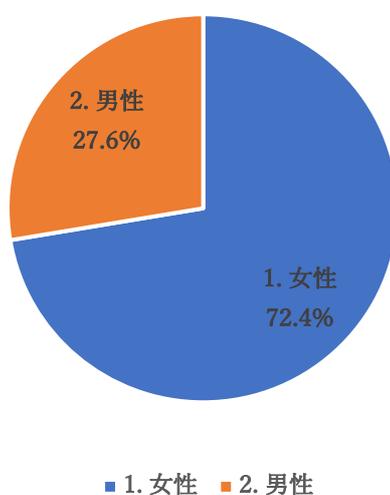


図 1. 回答者の性別 (%)

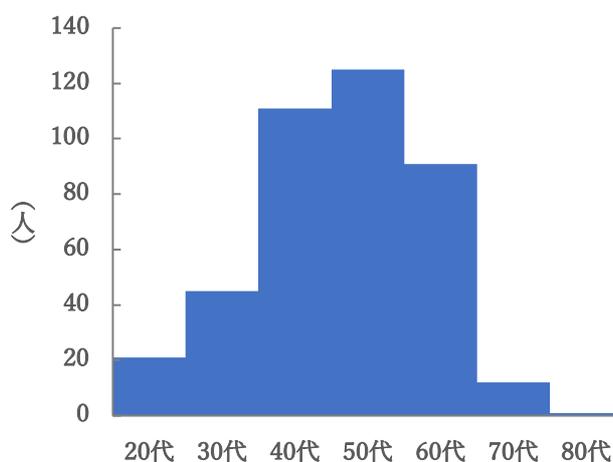


図 2. 回答者の年齢

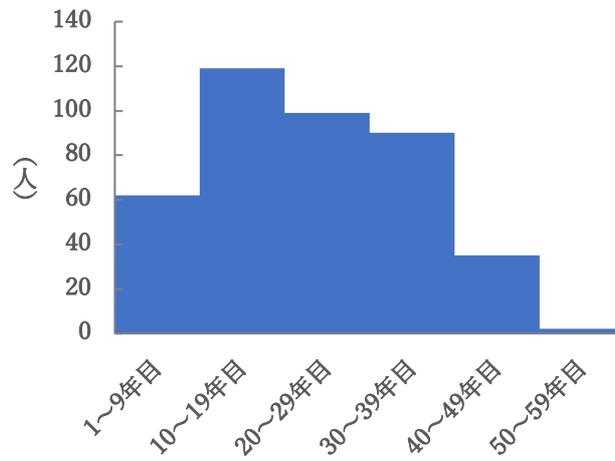


図 3. 回答者の勤務年数

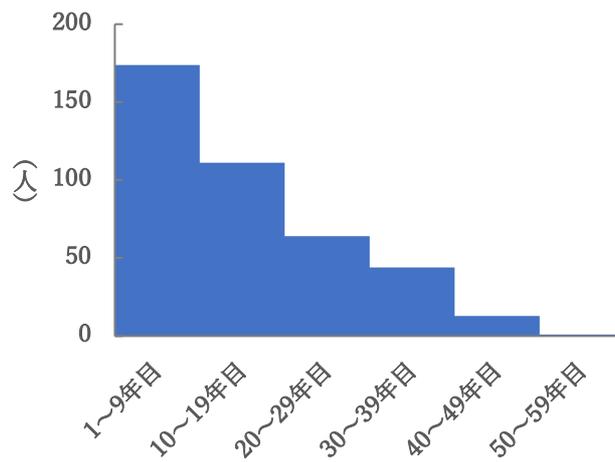


図 4. 回答者の現在の園（施設）での勤務年数

6.2. 回答者が所属する園（施設）の種別

回答者が所属する園（施設）の種別は、多い順に「2. 認定こども園」226名（55.3%）、「3. 認可保育所」139名（34.0%）、「1. 幼稚園」31名（7.6%）…でした（図5・表3）。

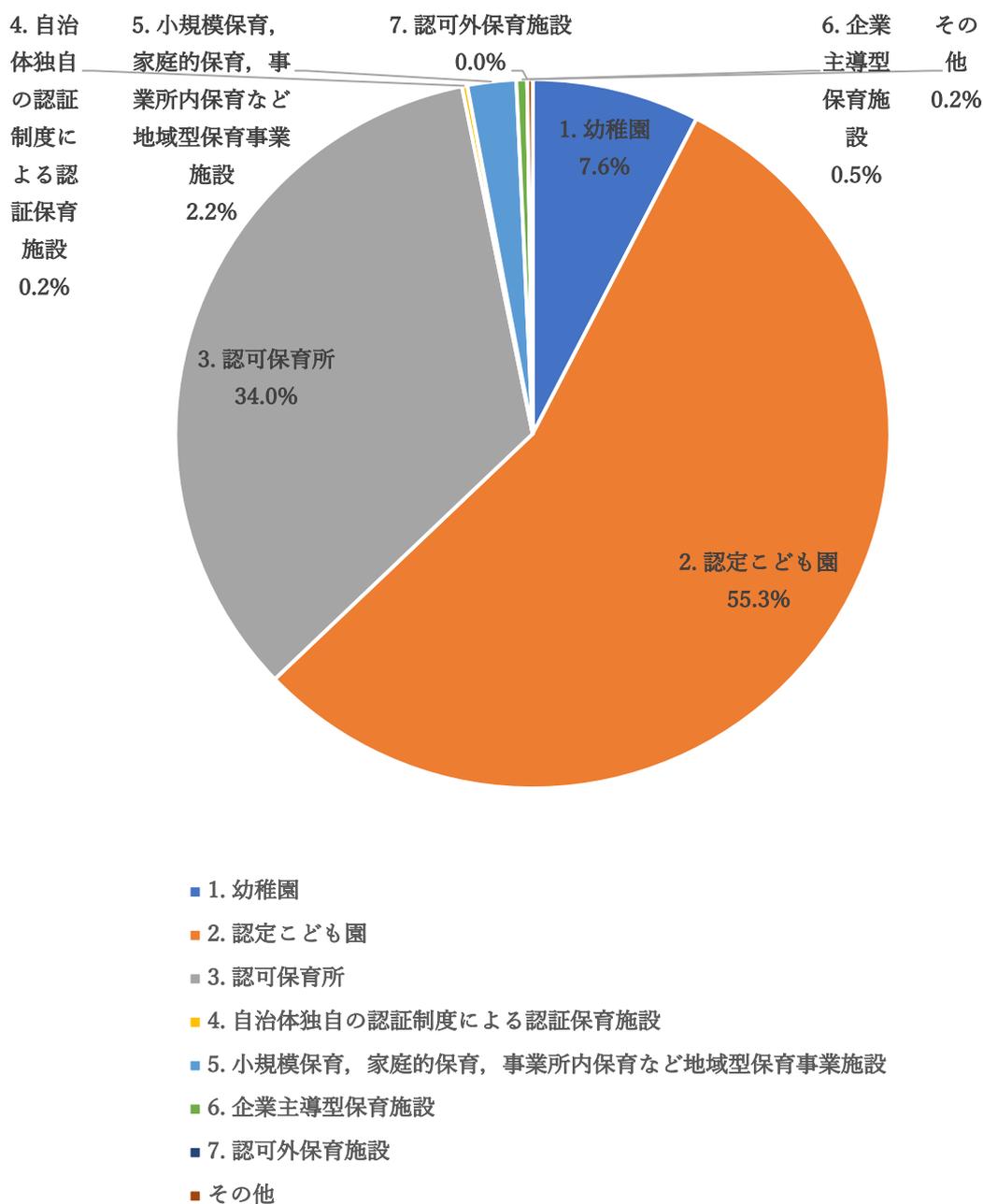


図 5. 所属する園（施設）の種別 (%)

表 3. 所属する園（施設）の種別（集計値）

園の種別	回答数	%
1. 幼稚園	31	7.6%
2. 認定こども園	226	55.3%
3. 認可保育所	139	34.0%
4. 自治体独自の認証制度による認証保育施設	1	0.2%
5. 小規模保育，家庭的保育，事業所内保育など地域型保育事業施設	9	2.2%
6. 企業主導型保育施設	2	0.5%
その他	1	0.2%
計	409	100%

6.3. 回答者が所属する園（施設）の設置主体

園（施設）の設置主体は、多い順に「4. 民設民営（私立）」360名（88.0%）, 「2. 公設公営（公立）」39名（9.5%）, 「3. 公設民営」10名（2.4%）でした（図6・表4）。

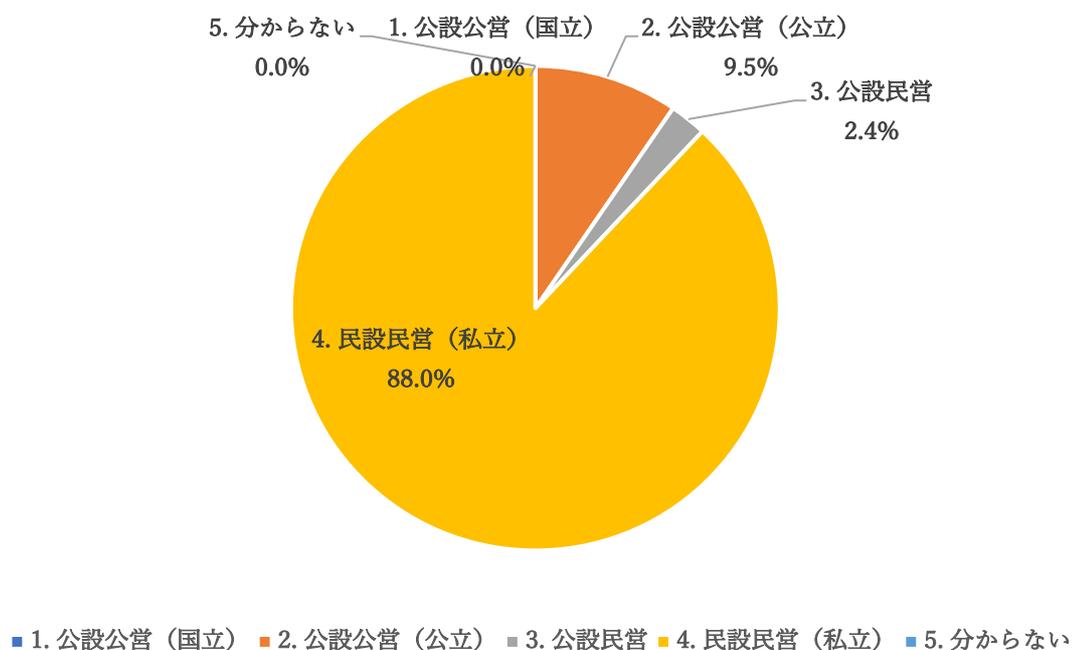


図 6. 園（施設）の設置主体 (%)

表 4. 園（施設）の設置主体（集計値）

	1. 公設公営 （国立）	2. 公設公営 （公立）	3. 公設民営	4. 民設民営 （私立）	5. 分から ない	計
回答数	0	39	10	360	0	409
%	0.0%	9.5%	2.4%	88.0%	0.0%	100%

注) 「4. 民設民営（私立）」には学校法人，社会福祉法人，宗教法人，企業を含みます。

6.4. 園（施設）の所在地域

園（施設）の所在地域は42の都道府県であり、多い順に、静岡県44名（10.8%）、福岡県31名（7.6%）、宮崎県26名（6.4%）、新潟県26名（6.4%）…でした（表5）。

表5. 園（施設）の所在地域（集計値）

	回答者数	%		回答者数	%
静岡県	44	10.8%	岡山県	6	1.5%
福岡県	31	7.6%	鹿児島県	6	1.5%
宮崎県	26	6.4%	長野県	6	1.5%
新潟県	26	6.4%	広島県	5	1.2%
福島県	19	4.6%	栃木県	5	1.2%
熊本県	17	4.2%	福井県	5	1.2%
大阪府	17	4.2%	兵庫県	5	1.2%
香川県	16	3.9%	和歌山県	5	1.2%
神奈川県	16	3.9%	滋賀県	4	1.0%
北海道	16	3.9%	大分県	4	1.0%
山梨県	15	3.7%	茨城県	3	0.7%
富山県	14	3.4%	宮城県	3	0.7%
群馬県	13	3.2%	山形県	3	0.7%
佐賀県	12	2.9%	島根県	3	0.7%
岐阜県	10	2.4%	愛知県	2	0.5%
石川県	9	2.2%	沖縄県	2	0.5%
秋田県	8	2.0%	愛媛県	1	0.2%
岩手県	7	1.7%	高知県	1	0.2%
京都府	7	1.7%	埼玉県	1	0.2%
青森県	7	1.7%	長崎県	1	0.2%
東京都	7	1.7%	奈良県	1	0.2%
			計	409	100%

注）回答者数が多い都道府県順に記載しています。

6.5. 回答者の園（施設）での役職

回答者が現在所属する園（施設）での役職は、多い順に「2. 園長・施設長」232名（56.7%）、「4. 主任または保育リーダー」72名（17.6%）、「5. 保育士・教諭」49名（12.0%）、「3. 副園長・副施設長」33名（8.1%）、「1. 理事・運営」10名（2.4%）、「その他（事務／特別支援員など）」8名（2.0%）、「6. 保育補助」5名（1.2%）でした（図7・表6）。

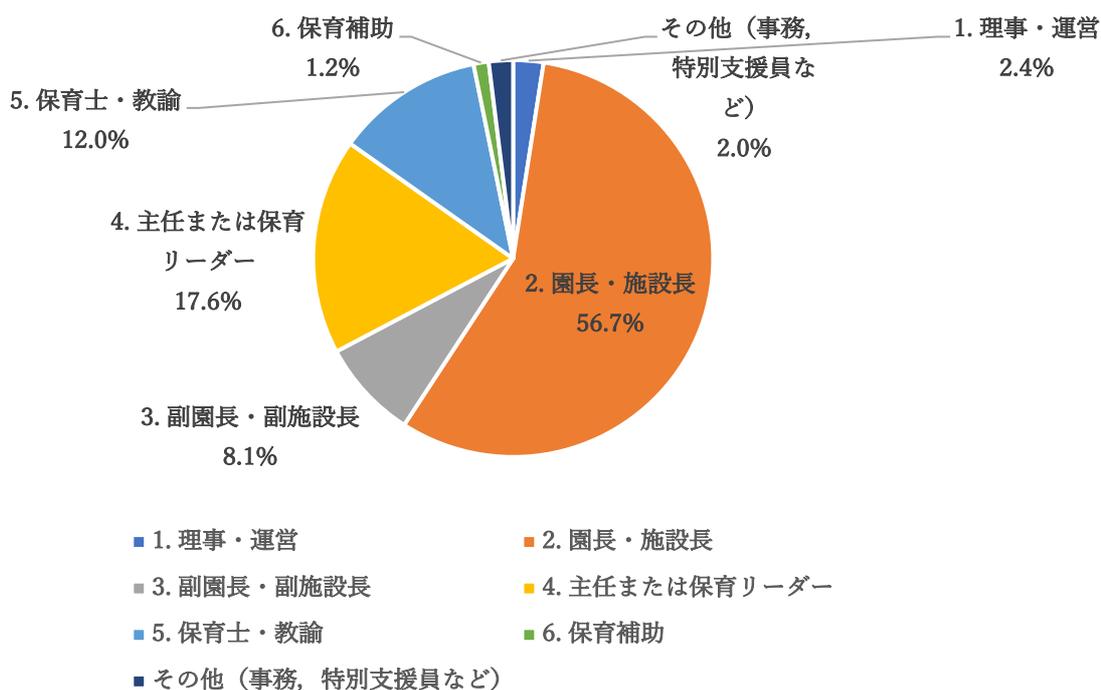


図 7. 回答者の役職 (%)

表 6. 回答者の役職（集計値）

	回答数	%
1. 理事・運営	10	2.4%
2. 園長・施設長	232	56.7%
3. 副園長・副施設長	33	8.1%
4. 主任または保育リーダー	72	17.6%
5. 保育士・教諭	49	12.0%
6. 保育補助	5	1.2%
その他（事務, 特別支援員など）	8	2.0%
計	409	100%

6.6. 回答者の担当クラス

理事・運営，園長・施設長，副園長・副施設長以外の役職の回答者に対し，担当クラスの年齢をお尋ねしました。最も多い回答は，「11. 特定の担当クラスはない」47名（36.6%），担当クラスがある場合の子どもの年齢は，多い順に「2. 1,2歳児」24名（17.9%），「5. 5歳児（年長）」14名（10.4%），「1. 0歳児」12名（9.0%）…でした（図8・表7）。

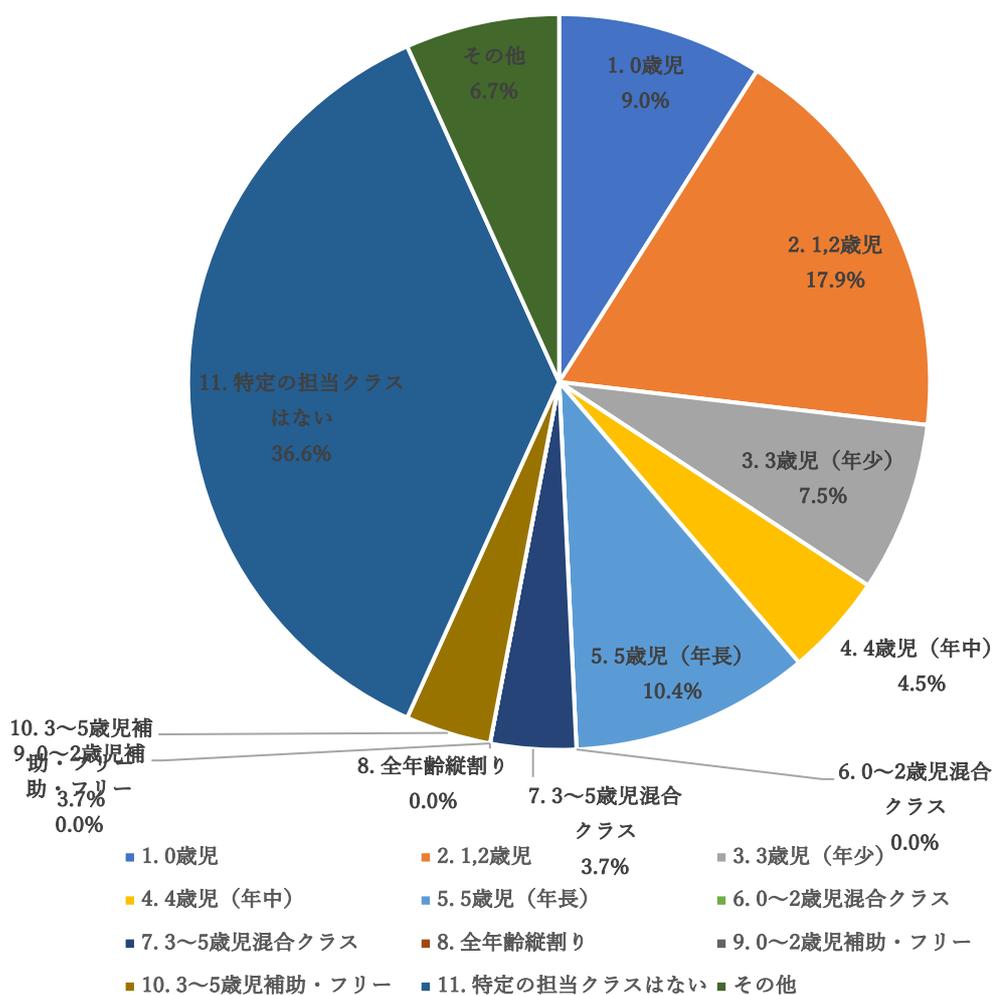


図 8. 回答者の担当クラス (%)

表 7. 回答者の担当クラス（集計値）

	回答数	%
1. 0 歳児	12	9.0%
2. 1,2 歳児	24	17.9%
3. 3 歳児（年少）	10	7.5%
4. 4 歳児（年中）	6	4.5%
5. 5 歳児（年長）	14	10.4%
6. 0～2 歳児混合クラス	0	0.0%
7. 3～5 歳児混合クラス	5	3.7%
8. 全年齢縦割り	0	0.0%
9. 0～2 歳児補助・フリー	0	0.0%
10. 3～5 歳児補助・フリー	5	3.7%
11. 特定の担当クラスはない	49	36.6%
その他	9	6.7%
計	134	100%

7. 主な結果

7.1. 「非認知能力」についての理解

Q14-1 「非認知能力」という言葉をご存知ですか？

「非認知能力」という言葉の理解について、お尋ねしました。回答の集計結果を図 9・表 8 に示します。

「Q14-1 「非認知能力」という言葉をご存知ですか？」への回答は、「1. 知っている」368名(90.0%)、「2. 知らない」41名(10.0%)でした。

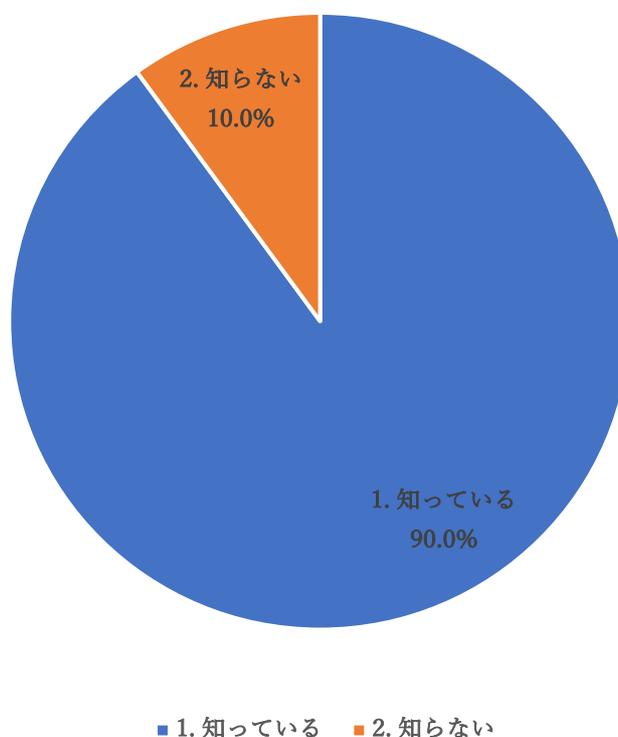


図 9. 「非認知能力」という言葉をご存知ですか？ (%)

表 8. 「非認知能力」という言葉をご存知ですか？ (集計値)

	1. 知っている	2. 知らない	計
回答数	368	41	409
%	90.0%	10.0%	100%

7.2. 「非認知能力」の重視度

Q14-3 ご自身のお考えとして、お子さんの「非認知能力」をどのくらい重視されていますか？

「Q14-1 「非認知能力」という言葉をご存知ですか？」への回答で「1. 知っている」と答えた人を対象に、「非認知能力」の重視度についてお尋ねしました。回答の集計結果を図 10・表 9 に示します。

「Q14-3 ご自身のお考えとして、お子さんの「非認知能力」をどのくらい重視されていますか？」への回答は、多い順に「5. とても大切だと思う」326名（88.6%）、「4. やや大切だと思う」18名（4.9%）、「1. 大切だと思わない」17名（4.6%）…でした。

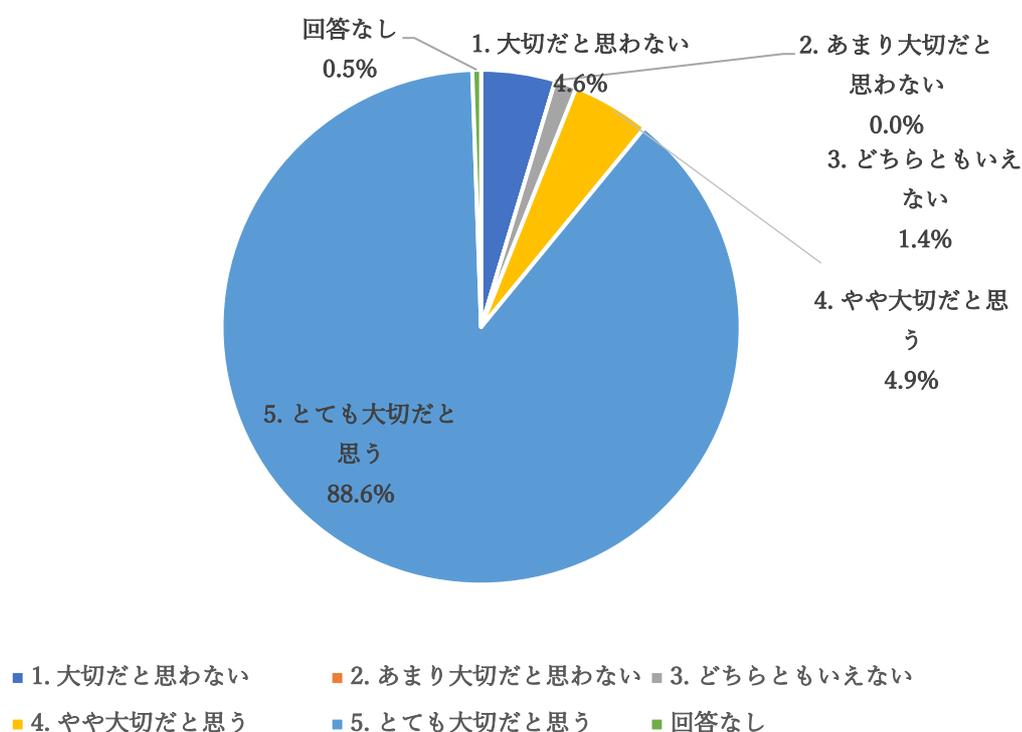


図 10. 「非認知能力」をどのくらい重視されていますか？ (%)

表 9. 「非認知能力」をどのくらい重視されていますか？ (集計値)

	1. 大切だと思わない	2. あまり大切だと思わない	3. どちらともいえない	4. やや大切だと思う	5. とても大切だと思う	回答なし	計
回答数	17	0	5	18	326	2	368
%	4.6%	0.0%	1.4%	4.9%	88.6%	0.5%	100%

7.3. 「非認知能力」についての園（施設）での取り組み

7.3.1. 園（施設）での取り組みの有無

Q14-4 貴園では、お子さんたちの非認知能力を育むための具体的な実践や取り組みをされていますか？

「Q14-1 「非認知能力」という言葉をご存知ですか？」への回答で「1. 知っている」と答えた人を対象に、「非認知能力」についての園（施設）での取り組みについてお尋ねしました。回答の集計結果を図 11・表 10 に示します。

「Q14-4 貴園では、お子さんたちの非認知能力を育むための具体的な実践や取り組みをされていますか？」への回答は、「1. している」329名（89.4%）、「2. していない」39名（10.6%）名でした。

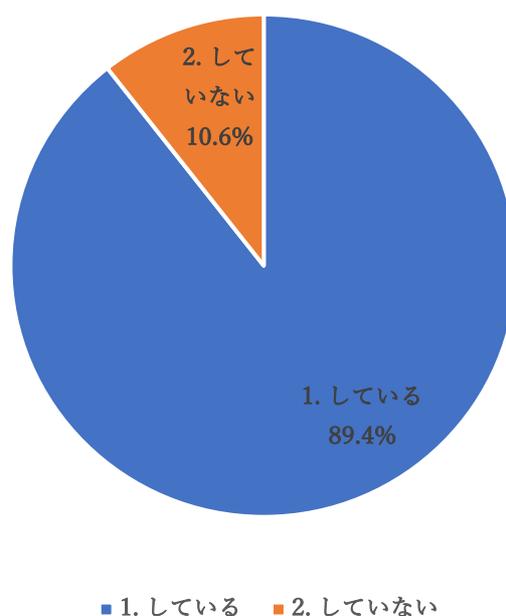


図 11. 「非認知能力」を育むための具体的な実践や取り組みをされていますか？（%）

表 10. 「非認知能力」を育むための具体的な実践や取り組みをされていますか？（集計値）

	1. している	2. していない	計
回答数	329	39	368
%	89.4%	10.6%	100%

7.3.2. 園（施設）での取り組みをしない理由

Q14-6（「非認知能力」を育むための取り組みをしていない場合）理由として最も近いものをお選びください。

「Q14-4 貴園では、お子さんたちの非認知能力を育むための具体的な実践や取り組みをされていますか？」への回答で「2. していない」と答えた人を対象にお尋ねしました。回答の集計結果を図 12・表 11 に示します。

「Q14-6（「非認知能力」を育むための取り組みをしていない場合）理由として最も近いものをお選びください。」への回答は、多い順に「2. 自然に育つものだと思うから」9名（25.7%）、次いで「5. そこまで手が回らない（予算や人手、時間の余裕がない）から」8名（22.9%）、「4. 何をして良いか分からないから」7名（20.0%）…でした。

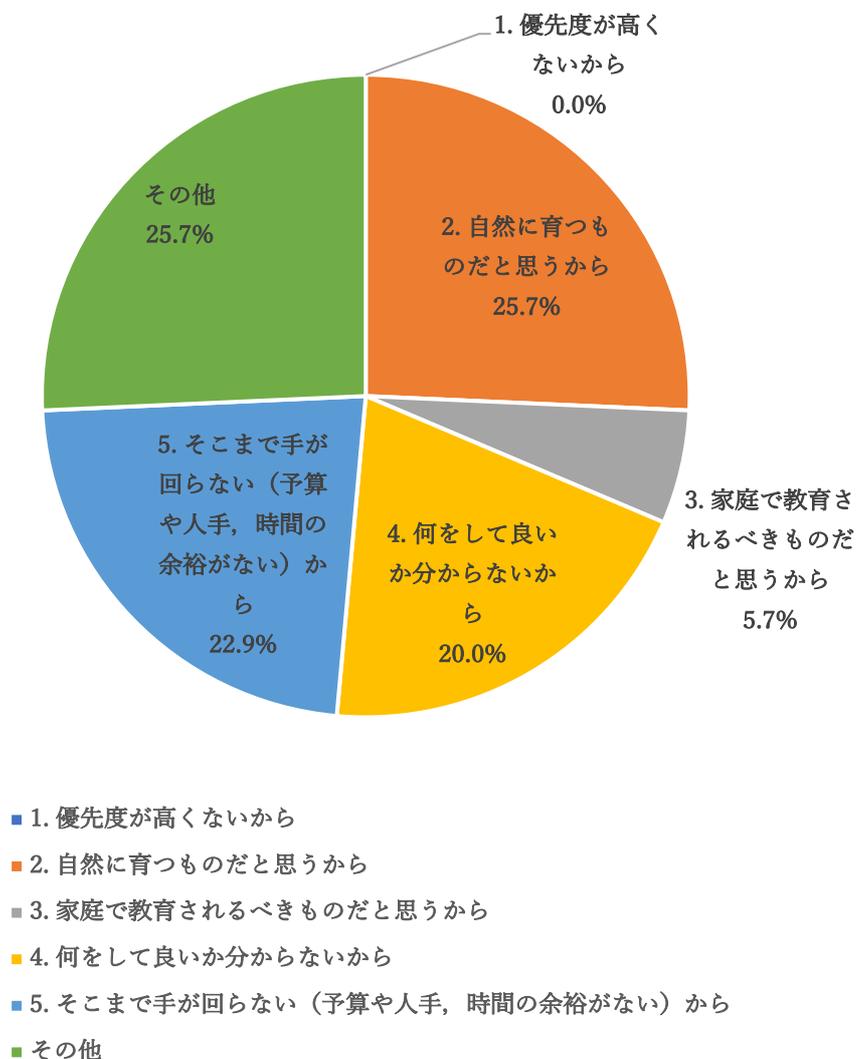


図 12. 「非認知能力」を育むための取り組みをしていない理由 (%)

表 11. 「非認知能力」を育むための取り組みをしていない理由（集計値）

	回答数	%
1. 優先度が低いから	0	0.0%
2. 自然に育つものだと思うから	9	25.7%
3. 家庭で教育されるべきものだと思うから	2	5.7%
4. 何をして良いか分からないから	7	20.0%
5. そこまで手が回らない（予算や人手，時間の余裕がない）から	8	22.9%
その他	9	25.7%
計	35	100%

7.4. 「非認知能力」についての研修や勉強会の実施・参加

7.4.1. 研修や勉強会の実施・参加の有無

Q15-1 「非認知能力」についての研修や勉強会などを貴園で実施したり，他所での研修や勉強会などに参加したりしていますか？※

※回答者が「1. 理事・運営」「2. 園長・施設長」「3. 副園長・副施設長」「4. 主任または保育リーダー」の場合は，質問を「Q15-1 「非認知能力」についての研修や勉強会などを貴園で実施したり，他所での研修や勉強会などに貴園の職員を参加させたりしていますか？」としました。

「Q14-1 「非認知能力」という言葉をご存知ですか？」への回答で「1. 知っている」と答えた人を対象に，「非認知能力」に関する研修や勉強会の実施，職員の参加状況についてお尋ねしました。回答の集計結果を図 13・表 12 に示します。

「Q15-1 「非認知能力」についての研修や勉強会などを貴園で実施したり，他所での研修や勉強会などに参加したりしていますか？」への回答は，「1. はい」269名（73.1%），「2. いいえ」99名（26.9%）でした。

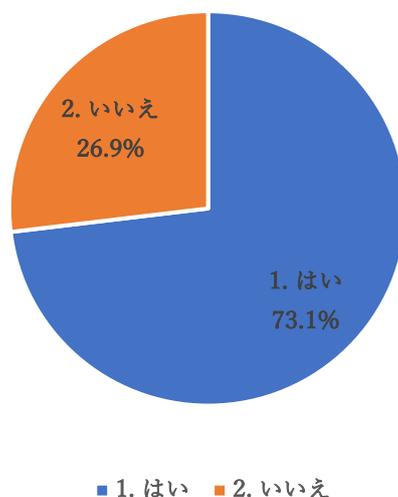


図 13. 「非認知能力」についての研修や勉強会などの実施・参加をしていますか？（%）

表 12. 「非認知能力」についての研修や勉強会などの実施・参加をしていますか？（集計値）

	1. はい	2. いいえ	計
回答数	269	99	368
%	73.1%	26.9%	100%

7.4.2. 研修や勉強会の実施・参加をしない理由

Q15-3 (研修等の実施・参加をしていない場合) 次のことは「研修等の実施・参加をしない理由」としてあてはまりますか？

「Q15-1「非認知能力」についての研修や勉強会などを貴園で実施したり、他所での研修や勉強会などに参加したりしていますか？」(※回答者が「1. 理事・運営」「2. 園長・施設長」「3. 副園長・副施設長」「4. 主任または保育リーダー」の場合、「Q15-1「非認知能力」についての研修や勉強会などを貴園で実施したり、他所での研修や勉強会などに貴園の職員を参加させたりしていますか？」)への回答で「2. いいえ」と答えた人を対象に、「非認知能力」に関する研修や勉強会の実施をしない理由についてお尋ねしました。回答の集計結果を図14・表13に示します。

「Q15-3 (研修等の実施・参加をしていない場合) 次のことは「研修等の実施・参加をしない理由」としてあてはまりますか？」への回答で「1.あてはまる」と回答した人の割合が最も多いのは、「(6)研修の機会がない, 講師がないから」(85.9%), 次いで「(5)非認知能力の研修として, 何をして良いか分からないから」(41.4%), 「(7)そこまで手が回らない(予算や人手, 時間の余裕がない)から」(38.4%)でした。

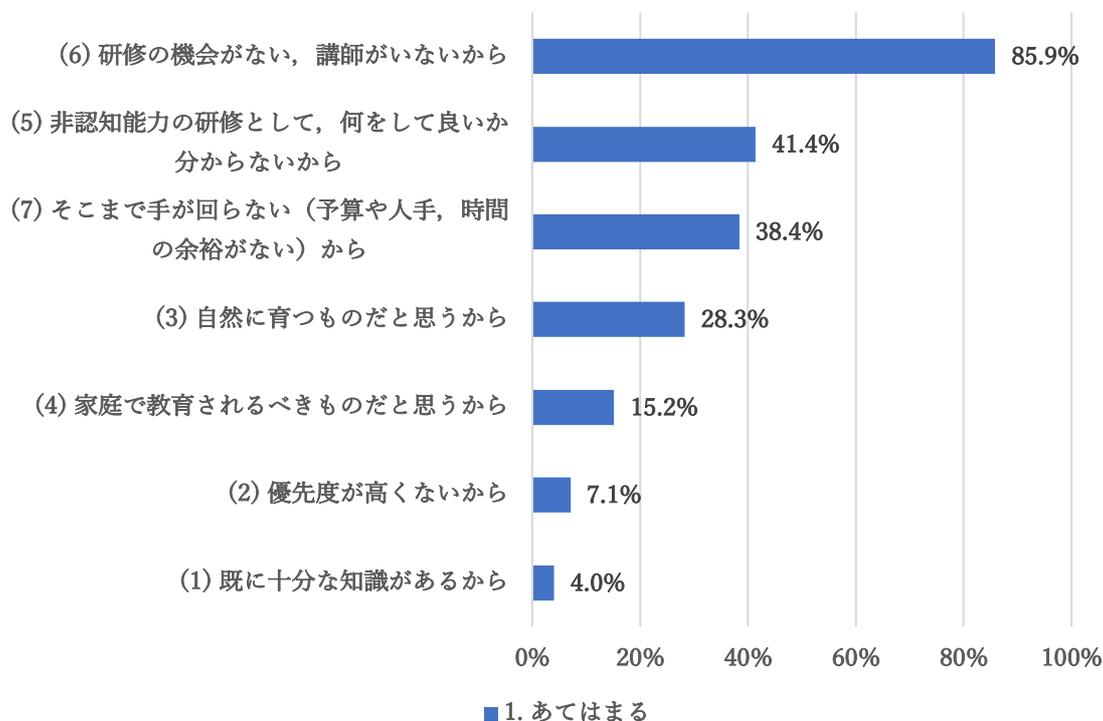


図14. 「非認知能力」についての研修や勉強会などの実施・参加をしない理由 (%)

表 13. 「非認知能力」についての研修や勉強会などの実施・参加をしない理由（集計値）

	回答数			%		
	1. あてはまる	2. あてはまらない	計	1. あてはまる	2. あてはまらない	計
(1) 既に十分な知識があるから	4	95	99	4.0%	96.0%	100%
(2) 優先度が低いから	7	92	99	7.1%	92.9%	100%
(3) 自然に育つものだと思うから	28	71	99	28.3%	71.7%	100%
(4) 家庭で教育されるべきものだと思うから	15	84	99	15.2%	84.8%	100%
(5) 非認知能力の研修として、何をして良いか分からないから	41	58	99	41.4%	58.6%	100%
(6) 研修の機会がない、講師がないから	85	14	99	85.9%	14.1%	100%
(7) そこまで手が回らない(予算や人手, 時間の余裕がない) から	38	61	99	38.4%	61.6%	100%

7.5. 子どもの資質・能力を育むための園（施設）での取り組み

7.5.1. 資質・能力を育むためのプログラムや取り組みの実施

Q16. 以下のような資質・能力を育むためのプログラムや取り組みを貴園で実施していますか？

18の資質・能力について、その資質・能力を育むためのプログラムや取り組みを園（施設）で実施しているか、お尋ねしました。回答の集計結果を図15・表14に示します。

「Q16. 以下のような資質・能力を育むためのプログラムや取り組みを貴園で実施していますか？」への回答で「1.実施している」と回答した人の割合が最も多いのは、「(11) 物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力」(97.3%)、2番目は「(15) 困っている人に共感したり、助けてあげようとしたりする思いやりの心」(96.3%)、3番目は「(18) 他の人と協力して何かをやり遂げる力」(95.6%)、「(17) 生活習慣や社会的ルール、礼儀正しさを守ろうとする心」(95.6%)でした。

一方、「2.実施していない」と回答した人の割合が最も多いのは、「(7) プログラミングなど情報処理に関わる力」(95.8%)、2番目は「(5) 社会の仕組みや地理・歴史に関する知識と理解力」(65.8%)、3番目は「(4) 理科や科学に関する知識と理解力」(50.9%)でした。

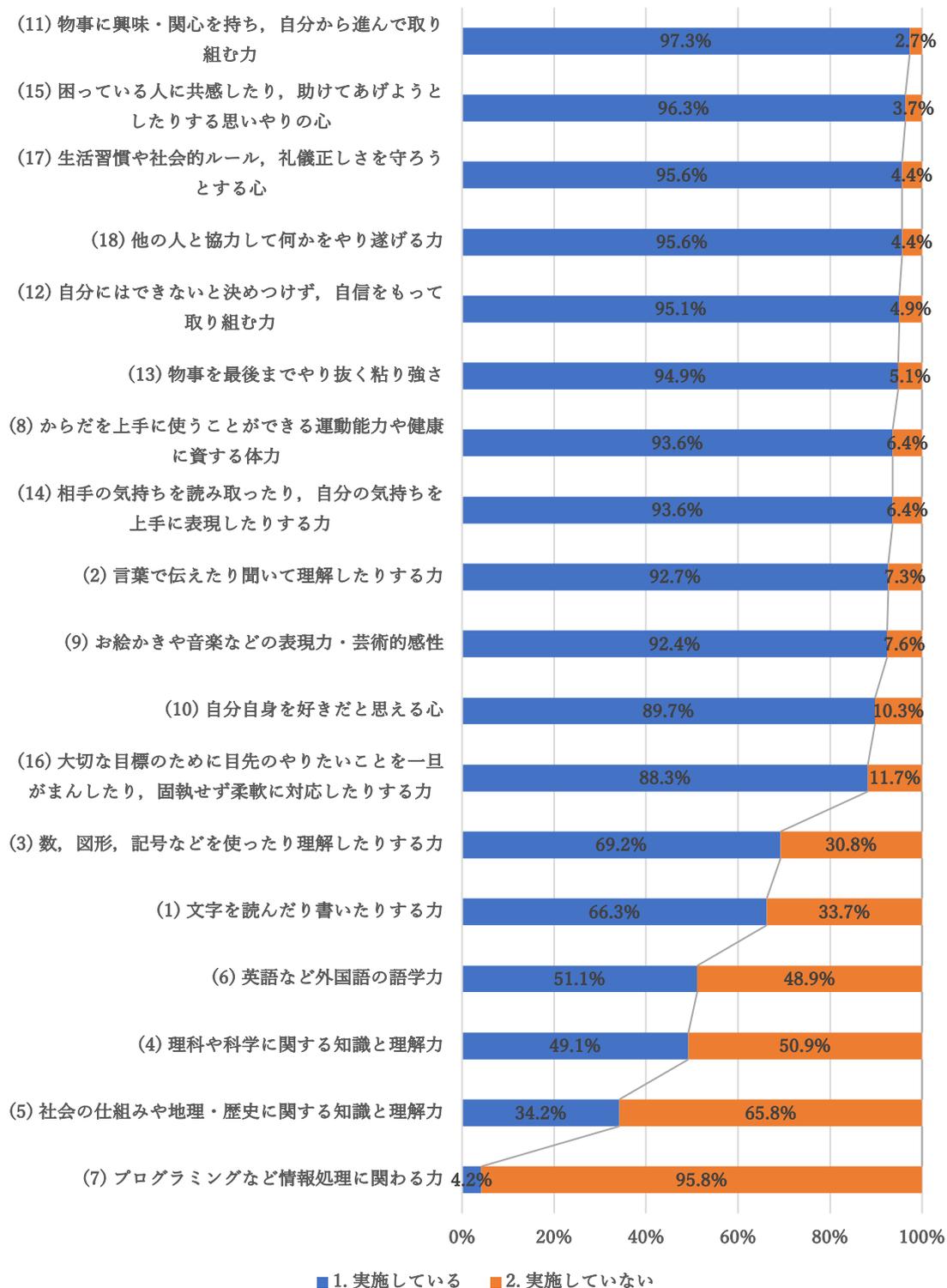


図 15. 資質・能力を育むためのプログラムや取り組みの実施 (%)

表 14. 資質・能力を育むためのプログラムや取り組みの実施（集計値）

	回答数			%		
	1. 実施している	2. 実施していない	計	1. 実施している	2. 実施していない	計
(1) 文字を読んだり書いたりする力	271	138	409	66.3%	33.7%	100%
(2) 言葉で伝えたり聞いて理解したりする力	379	30	409	92.7%	7.3%	100%
(3) 数、図形、記号などを使ったり理解したりする力	283	126	409	69.2%	30.8%	100%
(4) 理科や科学に関する知識と理解力	201	208	409	49.1%	50.9%	100%
(5) 社会の仕組みや地理・歴史に関する知識と理解力	140	269	409	34.2%	65.8%	100%
(6) 英語など外国語の語学力	209	200	409	51.1%	48.9%	100%
(7) プログラミングなど情報処理に関わる力	17	392	409	4.2%	95.8%	100%
(8) からだを上手に使うことができる運動能力や健康に資する体力	383	26	409	93.6%	6.4%	100%
(9) お絵かきや音楽などの表現力・芸術的感性	378	31	409	92.4%	7.6%	100%
(10) 自分自身を好きだと思える心	367	42	409	89.7%	10.3%	100%
(11) 物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力	398	11	409	97.3%	2.7%	100%

(12) 自分にはでき ないと決めつけず、 自信をもって取り組 む力	389	20	409	95.1%	4.9%	100%
(13) 物事を最後まで やり抜く粘り強さ	388	21	409	94.9%	5.1%	100%
(14) 相手の気持ち を読み取ったり、自 分の気持ちを上手に 表現したりする力	383	26	409	93.6%	6.4%	100%
(15) 困っている人 に共感したり、助け てあげようとしたり する思いやりの心	394	15	409	96.3%	3.7%	100%
(16) 大切な目標の ために目先のやりた いことを一旦がまん したり、固執せず柔 軟に対応したりする 力	361	48	409	88.3%	11.7%	100%
(17) 生活習慣や社 会的ルール、礼儀正 しさを守ろうとする 心	391	18	409	95.6%	4.4%	100%
(18) 他の人と協力 して何かをやり遂げ る力	391	18	409	95.6%	4.4%	100%

7.6. 資質・能力の中で特に大切にしたい力

7.6.1. 18の資質・能力の中で特に大切にしたい力

Q19. お子さんについて、次の資質・能力の中で、特に大切にしたい力を【上位5つ】までお選びください。

18の資質・能力について、これらの資質・能力の中で、特に大切にしたい力【上位5つ】をお尋ねしました。回答の集計結果を図16・表15に示します。

「Q19. お子さんについて、次の資質・能力の中で、特に大切にしたい力を【上位5つ】までお選びください。」への回答で「1.特に大切にしたい」と選択した人の割合が最も多いのは、「(10) 自分自身を好きだと思える心」(74.6%)、2番目は「(11) 物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力」(69.2%)、3番目は「(14) 相手の気持ちを読み取ったり、自分の気持ちを上手に表現したりする力」(56.7%)、4番目は「(15) 困っている人に共感したり、助けてあげようとしたりする思いやりの心」(55.5%)、5番目は「(12) 自分にはできないと決めつけず、自信をもって取り組む力」(47.7%)でした。

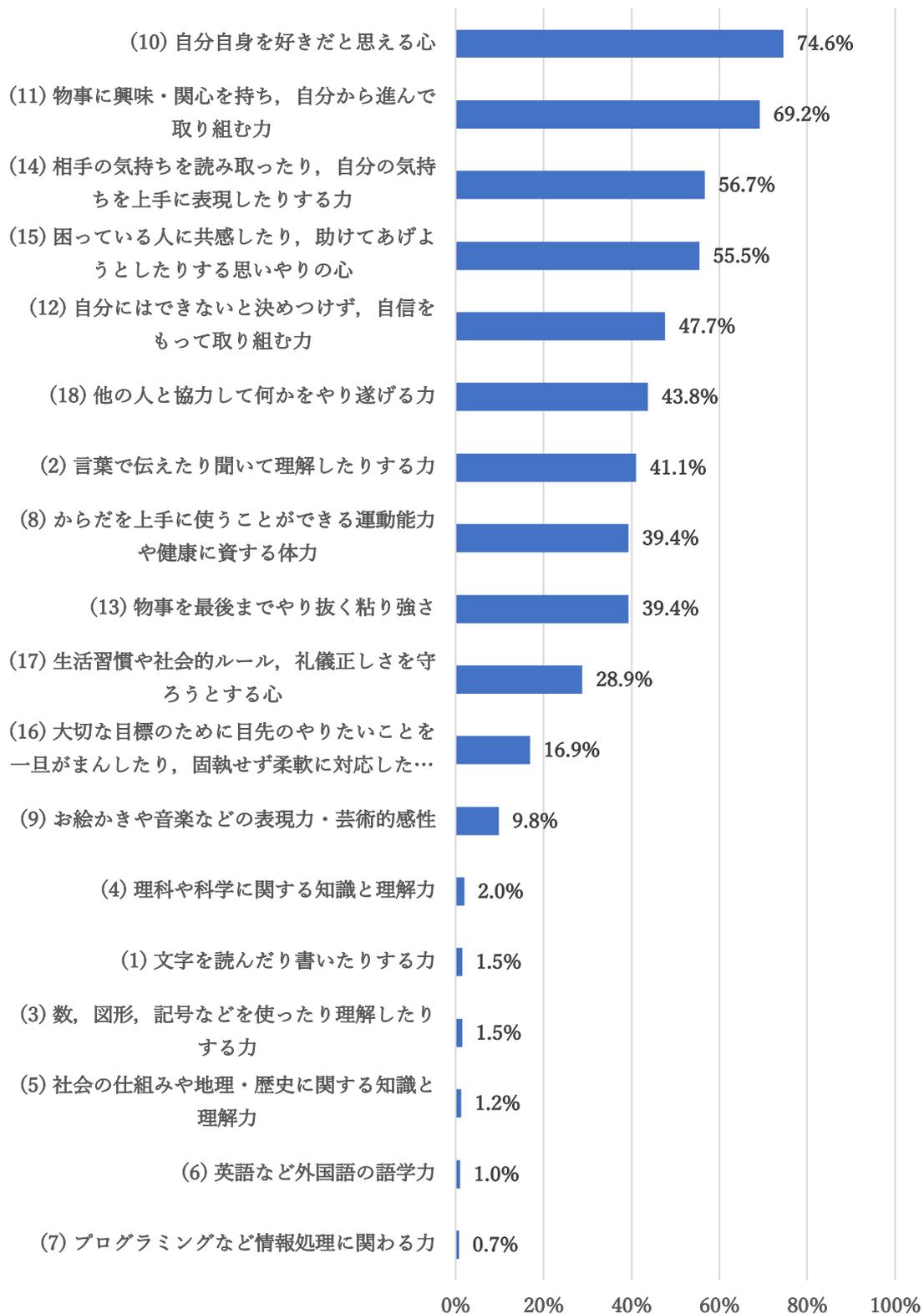


図 16.18 の資質・能力の中で特に大切にしたい力（選択率（%））

表 15. 18 の資質・能力の中で特に大切にしたい力（集計値）

	選択者数	%
(1) 文字を読んだり書いたりする力	6	1.5%
(2) 言葉で伝えたり聞いて理解したりする力	168	41.1%
(3) 数, 図形, 記号などを使ったり理解したりする力	6	1.5%
(4) 理科や科学に関する知識と理解力	8	2.0%
(5) 社会の仕組みや地理・歴史に関する知識と理解力	5	1.2%
(6) 英語など外国語の語学力	4	1.0%
(7) プログラミングなど情報処理に関わる力	3	0.7%
(8) からだを上手に使うことができる運動能力や健康に資する体力	161	39.4%
(9) お絵かきや音楽などの表現力・芸術的感性	40	9.8%
(10) 自分自身を好きだと思える心	305	74.6%
(11) 物事に興味・関心を持ち, 自分から進んで取り組む力	283	69.2%
(12) 自分にはできないと決めつけず, 自信をもって取り組む力	195	47.7%
(13) 物事を最後までやり抜く粘り強さ	161	39.4%
(14) 相手の気持ちを読み取ったり, 自分の気持ちを上手に表現したりする力	232	56.7%
(15) 困っている人に共感したり, 助けてあげようとしたりする思いやりの心	227	55.5%
(16) 大切な目標のために目先のやりたいことを一旦がまんしたり, 固執せず柔軟に対応したりする力	69	16.9%
(17) 生活習慣や社会的ルール, 礼儀正しさを守ろうとする心	118	28.9%
(18) 他の人と協力して何かをやり遂げる力	179	43.8%

注 1) 18 の資質・能力の中で, 特に大切にしたい力を【上位 5 つ】まで選択してもらいました。

注 2) %は回答者の総数 (N=409) に対する選択者数の割合を示します。

7.6.2. 「認知能力」と関連する7つの資質・能力の中で特に大切にしたい力

Q20. お子さんについて、次の資質・能力の中で、特に大切にしたい力を【上位3つ】までお選びください。

資質・能力のうち、「認知能力」と関連する7つの資質・能力の中で特に大切にしたい力【上位3つ】をお尋ねしました。回答の集計結果を図17・表16に示します。

「Q20. お子さんについて、次の資質・能力の中で、特に大切にしたい力を【上位3つ】までお選びください。」への回答で「1.特に大切にしたい」と選択した人の割合が最も多いのは、「(2) 言葉で伝えたり聞いて理解したりする力」(95.8%)、2番目は「(1) 文字を読んだり書いたりする力」(55.0%)、3番目は「(3) 数、図形、記号などを使ったり理解したりする力」(39.1%)でした。

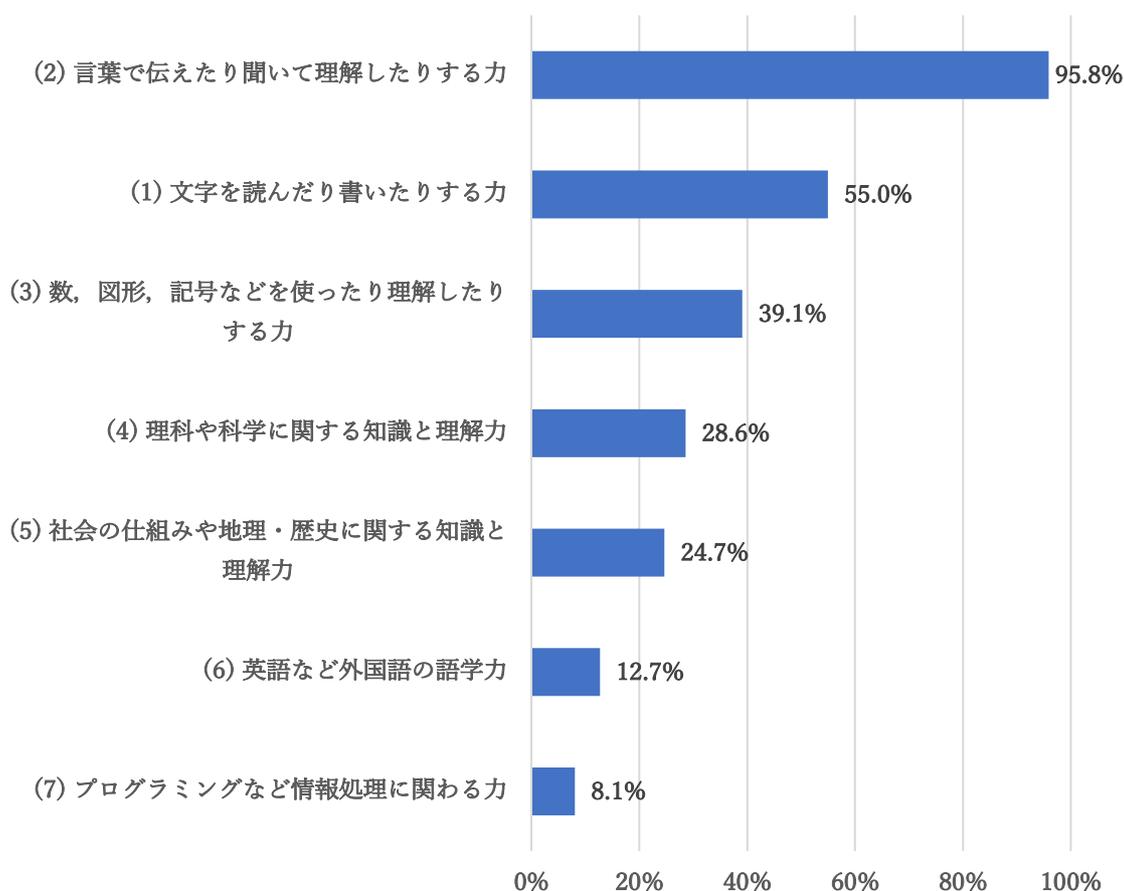


図17. 「認知能力」と関連する7つの資質・能力の中で特に大切にしたい力（選択率 (%)）

表 16. 「認知能力」と関連する 7 つの資質・能力の中で特に大切にしたい力（集計値）

	選択者数	%
(1) 文字を読んだり書いたりする力	225	55.0%
(2) 言葉で伝えたり聞いて理解したりする力	392	95.8%
(3) 数, 図形, 記号などを使ったり理解したりする力	160	39.1%
(4) 理科や科学に関する知識と理解力	117	28.6%
(5) 社会の仕組みや地理・歴史に関する知識と理解力	101	24.7%
(6) 英語など外国語の語学力	52	12.7%
(7) プログラミングなど情報処理に関わる力	33	8.1%

注 1) 7 つの資質・能力の中で, 特に大切にしたい力を【上位 3 つ】まで選択してもらいました。

注 2) %は回答者の総数 (N=409) に対する選択者数の割合を示します。

7.6.3. 「非認知能力」と関連する9つの資質・能力の中で特に大切にしたい力

Q21. お子さんについて、次の資質・能力の中で、特に大切にしたい力を【上位3つ】までお選びください。

資質・能力のうち、「非認知能力」と関連する9つの資質・能力の中で特に大切にしたい力【上位3つ】をお尋ねしました。回答の集計結果を図18・表17に示します。

「Q21. お子さんについて、次の資質・能力の中で、特に大切にしたい力を【上位3つ】までお選びください。」への回答で「1.特に大切にしたい」と選択した人の割合が最も多いのは、「(1) 自分自身を好きだと思える心」(70.9%)、2番目は「(2) 物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力」(49.6%)、3番目は「(5) 相手の気持ちを読み取ったり、自分の気持ちを上手に表現したりする力」(43.0%)でした。

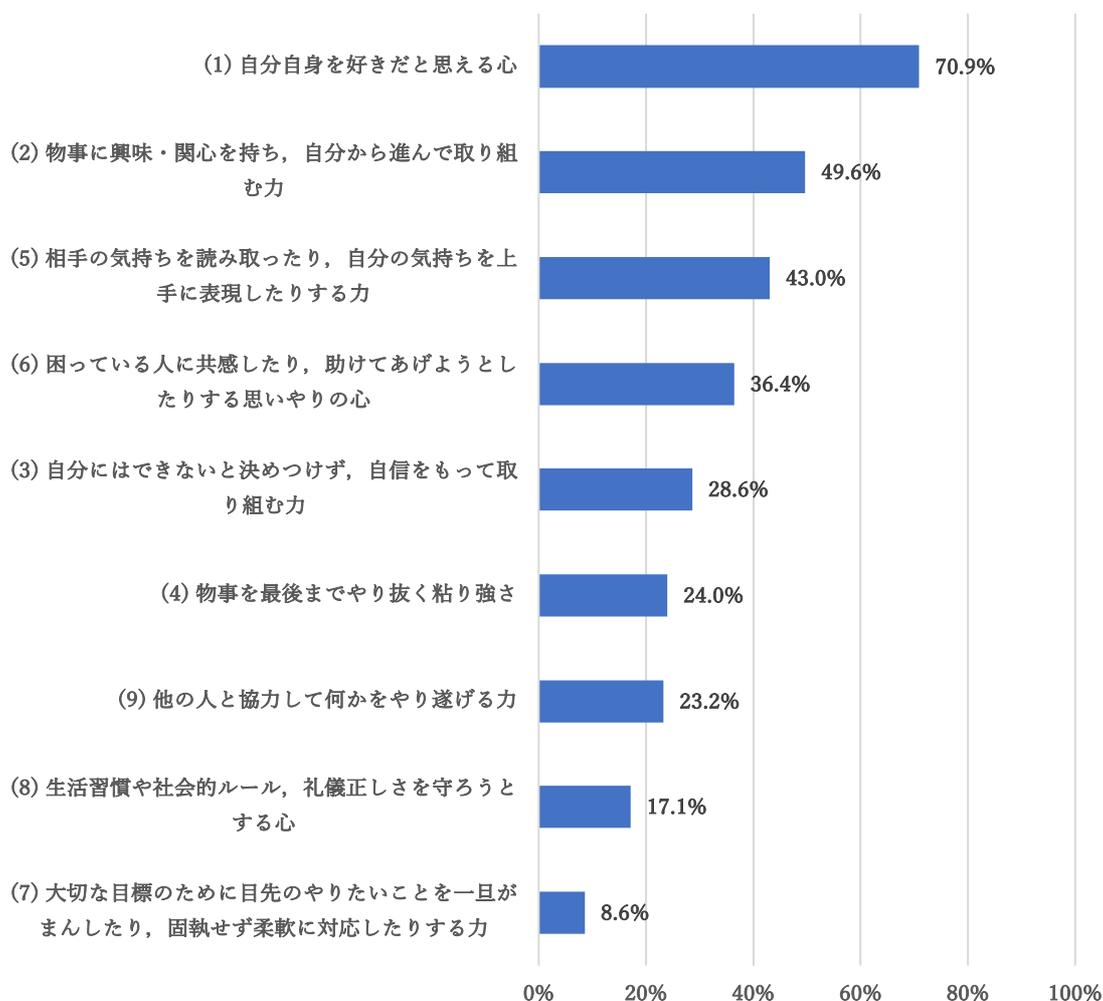


図18. 「非認知能力」と関連する9つの資質・能力の中で特に大切にしたい力（選択率(%)）

表 17. 「非認知能力」と関連する 9 つの資質・能力の中で特に大切にしたい力（集計値）

	選択者数	%
(1) 自分自身を好きだと思える心	290	70.9%
(2) 物事に興味・関心を持ち，自分から進んで取り組む力	203	49.6%
(3) 自分にはできないと決めつけず，自信をもって取り組む力	117	28.6%
(4) 物事を最後までやり抜く粘り強さ	98	24.0%
(5) 相手の気持ちを読み取ったり，自分の気持ちを上手に表現したりする力	176	43.0%
(6) 困っている人に共感したり，助けてあげようとしたりする思いやりの心	149	36.4%
(7) 大切な目標のために目先のやりたいことを一旦がまんしたり，固執せず柔軟に対応したりする力	35	8.6%
(8) 生活習慣や社会的ルール，礼儀正しさを守ろうとする心	70	17.1%
(9) 他の人と協力して何かをやり遂げる力	95	23.2%

注 1) 9 つの資質・能力の中で，特に大切にしたい力を【上位 3 つ】まで選択してもらいました。

注 2) %は回答者の総数（ $N=409$ ）に対する選択者数の割合を示します。

7.6.4. 「10の姿」の中で特に大切にしたい力

Q22. お子さんについて、次の資質・能力の中で、特に大切にしたい力を【上位3つ】までお選びください。

「10の姿」に含まれる資質・能力の中で特に大切にしたい力【上位3つ】をお尋ねしました。回答の集計結果を図19・表18に示します。

「Q22. お子さんについて、次の資質・能力の中で、特に大切にしたい力を【上位3つ】までお選びください。」への回答で「1.特に大切にしたい」と選択した人の割合が最も多いのは、「(1) 健康な心と体」(74.6%)、2番目は「(10) 豊かな感性と表現」(45.2%)、3番目は「(3) 協同性」(38.4%)でした。

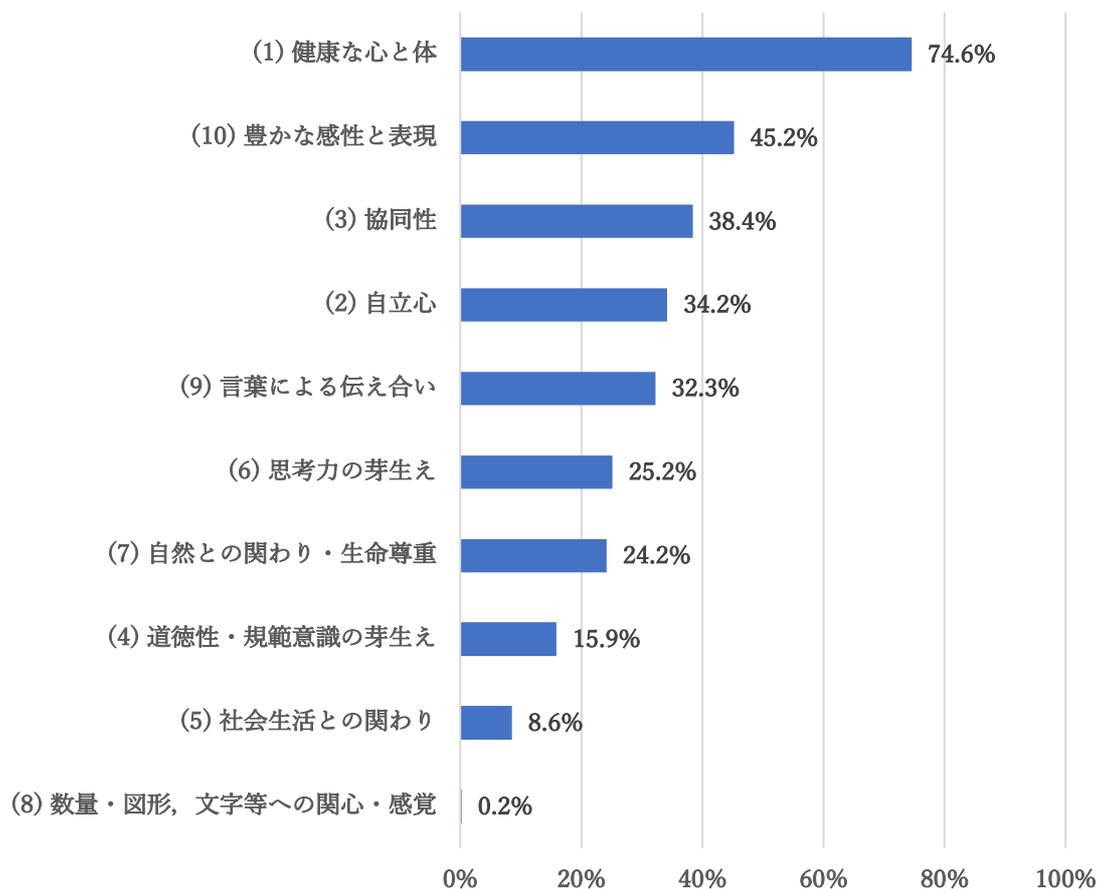


図19. 「10の姿」の中で特に大切にしたい力（選択率（%））

表 18. 「10の姿」の中で特に大切にしたい力

	選択者数	%
(1) 健康な心と体	305	74.6%
(2) 自立心	140	34.2%
(3) 協同性	157	38.4%
(4) 道徳性・規範意識の芽生え	65	15.9%
(5) 社会生活との関わり	35	8.6%
(6) 思考力の芽生え	103	25.2%
(7) 自然との関わり・生命尊重	99	24.2%
(8) 数量・図形, 文字等への関心・感覚	1	0.2%
(9) 言葉による伝え合い	132	32.3%
(10) 豊かな感性と表現	185	45.2%

注1) 10の資質・能力の中で、特に大切にしたい力を【上位3つ】まで選択してもらいました。

注2) %は回答者の総数（N=409）に対する選択者数の割合を示します。

7.7. 個々の「非認知能力」の重視度・プログラムや教材へのニーズ

「非認知能力」に含まれる資質・能力のうち、(1)内発的動機づけ（物事に興味・関心を持ち、自分で決めて自分から進んで物事に取り組む力）、(2)自己効力感（自分にはできないと決めつけず、自信をもって物事に取り組む力）、(3)感情知性（相手の気持ちを読み取ったり、自分の気持ちを上手に表現したりする力）、(4)向社会性（困っている人に共感したり、助けてあげようとしたりする思いやりの心）、(5)セルフコントロール（大切な目標のために目先のやりたいことを一旦がまんしたり、固執せず柔軟に対応したりする力）の5つについて、①それぞれの重視度、②その力を伸ばすためのプログラムや活動への関心、③その力を伸ばすための園での具体的な取り組み・活動・関わり方の工夫の有無、④（取り組みをしている場合）具体的な内容、⑤（取り組みをしていない場合）その理由、⑥その力の育成をサポートする教材やプログラムに対するニーズ、⑦（教材やプログラムを利用したいと思わない場合）その理由についてお尋ねしました。

● 特に取り上げた5つの「非認知能力」

- (1) 内発的動機づけ（物事に興味・関心を持ち、自分で決めて自分から進んで物事に取り組む力）
- (2) 自己効力感（自分にはできないと決めつけず、自信をもって物事に取り組む力）
- (3) 感情知性（相手の気持ちを読み取ったり、自分の気持ちを上手に表現したりする力）
- (4) 向社会性（困っている人に共感したり、助けてあげようとしたりする思いやりの心）
- (5) セルフコントロール（大切な目標のために目先のやりたいことを一旦がまんしたり、固執せず柔軟に対応したりする力）

以下では、この5つの「非認知能力」の(1)重視度、(2)プログラムや活動への関心、(3)園の中での取り組み・活動・関わり方の工夫、(4)教材やプログラムに対するニーズについての回答の集計結果をご報告します。

7.7.1. 5つの「非認知能力」の重視度

Q23～27-1. お子さんにとって、この力はどのくらい大切だと感じますか？

5つの「非認知能力」について、それぞれの力をどのくらい大切だと感じるか、お尋ねしました。回答の集計結果を図 20・表 19 に示します。

「Q23～27-1. お子さんにとって、この力はどのくらい大切だと感じますか？」への回答として、いずれも、「5. とても大切だと思う」を選択した人が最も多く（(5)セルフコントロール 59.7%～(1)内発的動機づけ 89.5%），次いで「4. やや大切だと思う」（(1)内発的動機づけ 7.3%～(5)セルフコントロール 29.6%）を選択した人が多いという結果でした。

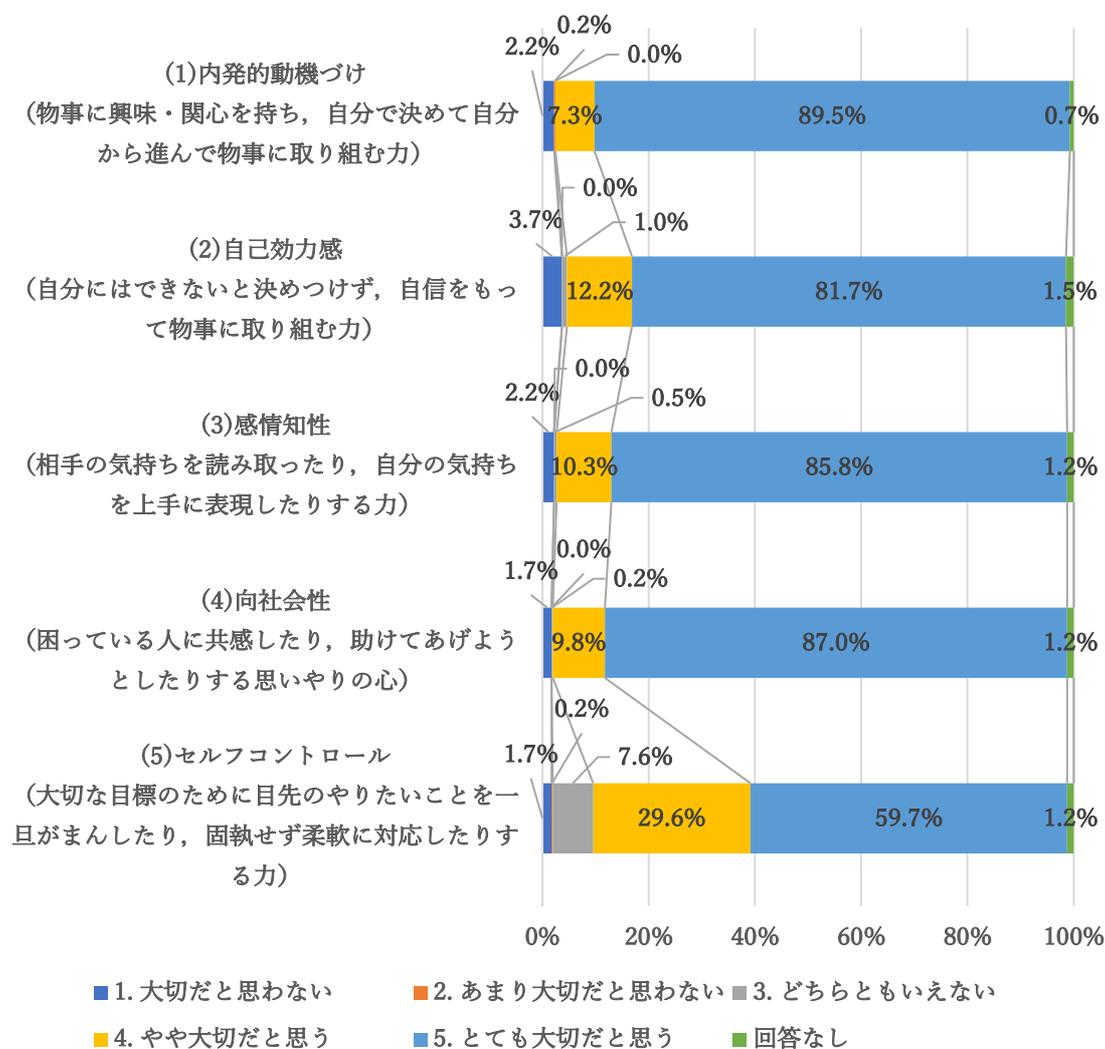


図 20. お子さんにとって、この力はどのくらい大切だと感じますか？ (%)

表 19. お子さんにとって、この力はどのくらい大切だと感じますか？（集計値）

		1. 大切 だと思 わない	2. あま り大切 だと思 わない	3. どち らとも いえな い	4. やや 大切だ と思う	5. とて も大切 だと思 う	回答な し	計
(1)内発的 動機づけ	回答数	9	1	0	30	366	3	409
	%	2.2%	0.2%	0.0%	7.3%	89.5%	0.7%	100%
(2)自己効 力感	回答数	15	0	4	50	334	6	409
	%	3.7%	0.0%	1.0%	12.2%	81.7%	1.5%	100%
(3)感情知 性	回答数	9	0	2	42	351	5	409
	%	2.2%	0.0%	0.5%	10.3%	85.8%	1.2%	100%
(4)向社会 性	回答数	7	0	1	40	356	5	409
	%	1.7%	0.0%	0.2%	9.8%	87.0%	1.2%	100%
(5)セルフ コントロ ール	回答数	7	1	31	121	244	5	409
	%	1.7%	0.2%	7.6%	29.6%	59.7%	1.2%	100%

7.7.2. プログラムや活動への関心

Q23～27-2. こうした力を伸ばすためのプログラムや活動について調べたり聞いたりしたことはありますか？

5つの「非認知能力」について、それぞれの力を伸ばすためのプログラムや活動への関心についてお尋ねしました。回答の集計結果を図 21・表 20 に示します。

「Q23～27-2. こうした力を伸ばすためのプログラムや活動について調べたり聞いたりしたことはありますか？」への回答として「1.ある」と選択した人の割合が最も多いのは、「(1) 内発的動機づけ（物事に興味・関心を持ち、自分で決めて自分から進んで物事に取り組む力）」（68.2%）、2番目は「(2)自己効力感（自分にはできないと決めつけず、自信をもって物事に取り組む力）」（48.7%）、3番目は「(3)感情知性（相手の気持ちを読み取ったり、自分の気持ちを上手に表現したりする力）」（46.9%）でした。

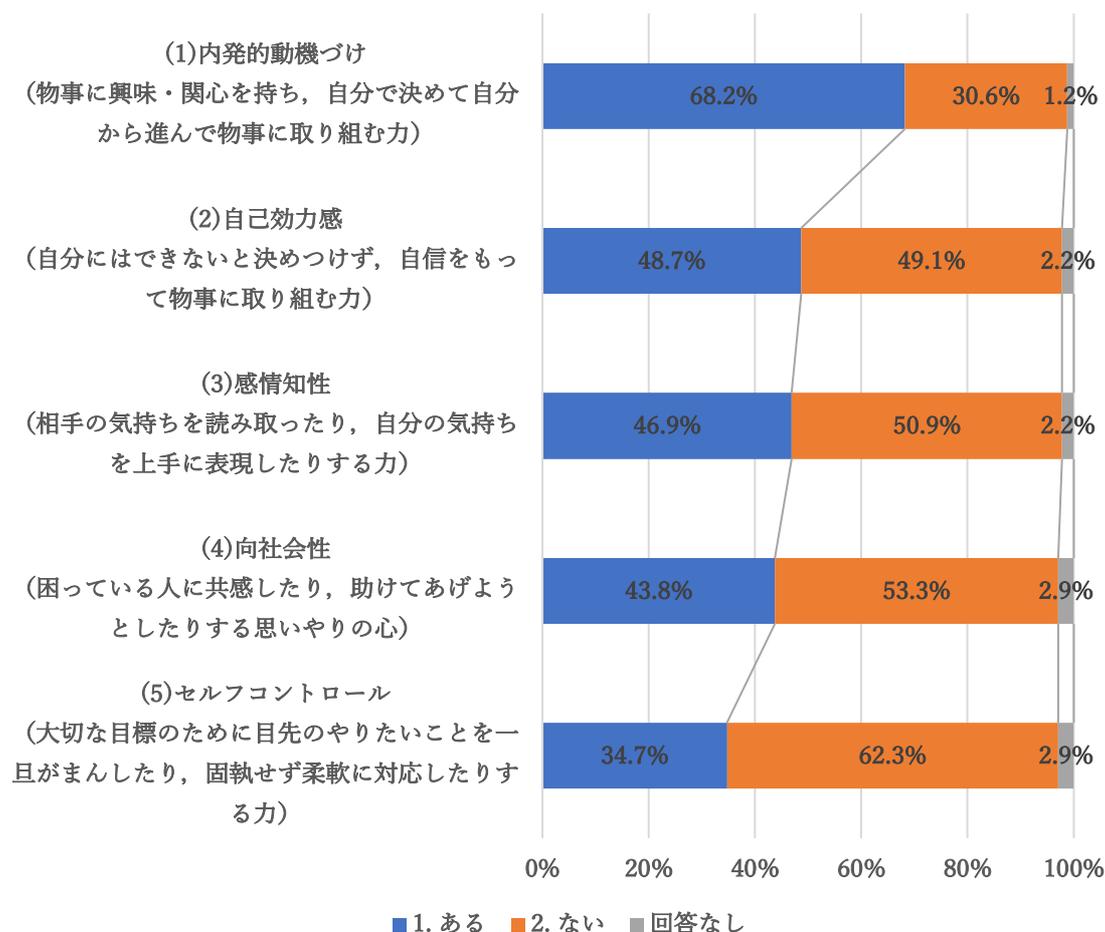


図 21. こうした力を伸ばすためのプログラムや活動について調べたり聞いたりしたことはありますか？ (%)

表 20. こうした力を伸ばすためのプログラムや活動について調べたり聞いたりしたことはありますか？（集計値）

		1. ある	2. ない	回答なし	計
(1)内発的動機づけ	回答数	279	125	5	409
	%	68.2%	30.6%	1.2%	100%
(2)自己効力感	回答数	199	201	9	409
	%	48.7%	49.1%	2.2%	100%
(3)感情知性	回答数	192	208	9	409
	%	46.9%	50.9%	2.2%	100%
(4)向社会性	回答数	179	218	12	409
	%	43.8%	53.3%	2.9%	100%
(5)セルフコントロール	回答数	142	255	12	409
	%	34.7%	62.3%	2.9%	100%

7.7.3. 園の中での取り組み・活動・関わり方の工夫

Q23～27-3. こうした力を伸ばすための具体的な取り組み・活動・関わり方の工夫を園の中でしていますか？

5つの「非認知能力」について、それぞれの力を伸ばすための具体的な取り組み・活動・関わり方の工夫を園の中でしているか、お尋ねしました。回答の集計結果を図 22・表 21 に示します。

「Q23～27-3. こうした力を伸ばすための具体的な取り組み・活動・関わり方の工夫を園の中でしていますか？」への回答として「2.具体的な取り組みをしている」と選択した人の割合が最も多いのは、「(1) 内発的動機づけ（物事に興味・関心を持ち、自分で決めて自分から進んで物事に取り組む力）」（69.4%）、2番目は「(2)自己効力感（自分にはできないと決めつけず、自信をもって物事に取り組む力）」（63.8%）、3番目は「(3)感情知性（相手の気持ちを読み取ったり、自分の気持ちを上手に表現したりする力）」（57.7%）でした。

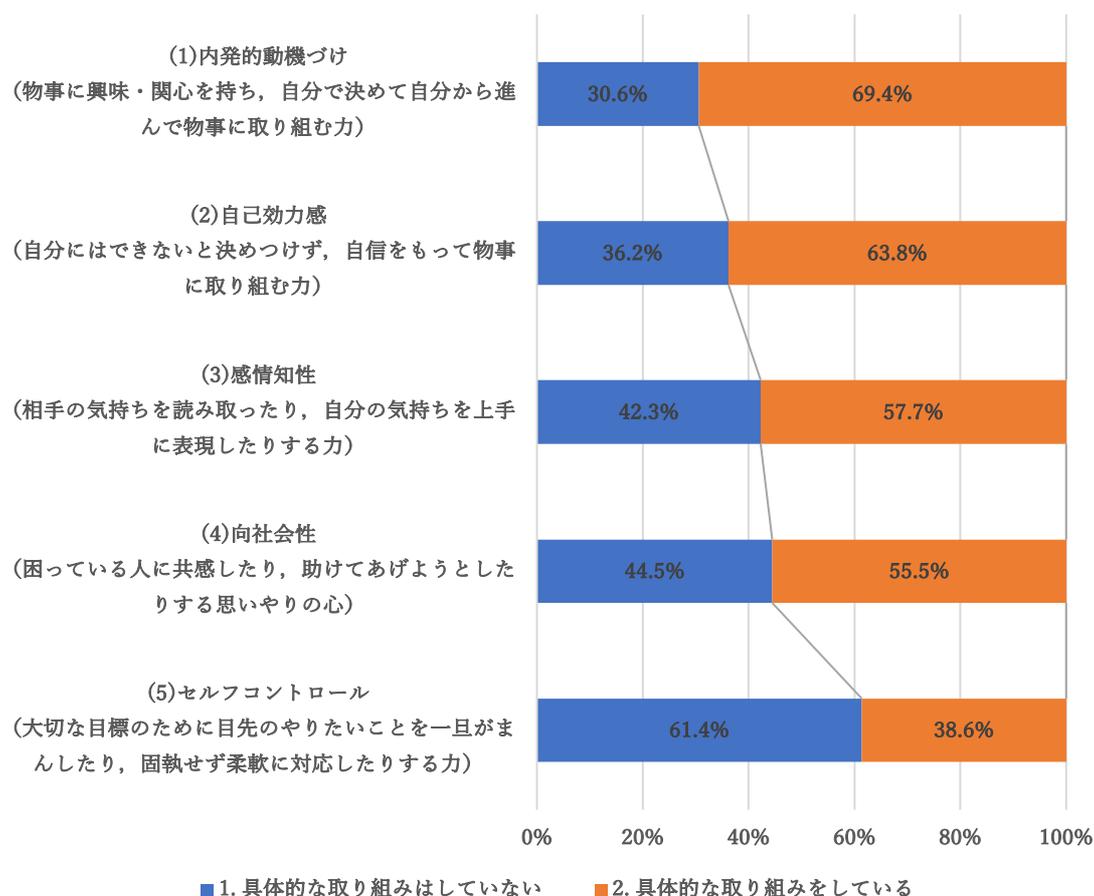


図 22. こうした力を伸ばすための具体的な取り組み・活動・関わり方の工夫を園の中でしていますか？ (%)

表 21. こうした力を伸ばすための具体的な取り組み・活動・関わり方の工夫を園の中でしていますか？（集計値）

		1. 具体的な 取り組みはし ていない	2. 具体的な 取り組みをし ている	計
(1)内発的動機づけ	回答数	125	284	409
	%	30.6%	69.4%	100%
(2)自己効力感	回答数	148	261	409
	%	36.2%	63.8%	100%
(3)感情知性	回答数	173	236	409
	%	42.3%	57.7%	100%
(4)向社会性	回答数	182	227	409
	%	44.5%	55.5%	100%
(5)セルフコントロール	回答数	251	158	409
	%	61.4%	38.6%	100%

7.7.4. 教材やプログラムに対するニーズ

Q23～27-6. こうした力の育成をサポートするサービスとして、次のような教材やプログラムがあったら園の中で使いたいと思いますか？

5つの「非認知能力」について、それぞれの力の育成をサポートする教材やプログラムとして、(1)「こうした力の育ちの見とり方について学べる、先生向けの学習コンテンツ」、(2)「こうした力の育ちを助ける具体的な言葉かけの方法について学べる、先生向けの学習コンテンツ」、(3)「こうした力の育ちを助ける具体的な活動案／カリキュラム」に対するニーズをお尋ねしました。回答の集計結果を図 23～図 25・表 22～表 24 に示します。

「Q23～27-6. こうした力の育成をサポートするサービスとして、次のような教材やプログラムがあったら園の中で使いたいと思いますか？」への回答として「1.使いたいと思う」と選択した人の割合が多いのは、(1)～(3)のいずれの教材・プログラムにおいても、1番目は「(1) 内発的動機づけ（物事に興味・関心を持ち、自分で決めて自分から進んで物事に取り組む力）」（(1)78.2%・(2)82.4%・(3)80.4%）、2番目は「(2)自己効力感（自分にはできないと決めつけず、自信をもって物事に取り組む力）」（(1) 74.8%・(2) 77.3%・(3) 77.3%）、3番目は「(3)感情知性（相手の気持ちを読み取ったり、自分の気持ちを上手に表現したりする力）」（(1) 73.8%・(2) 76.3%・(3)76.3%）でした。

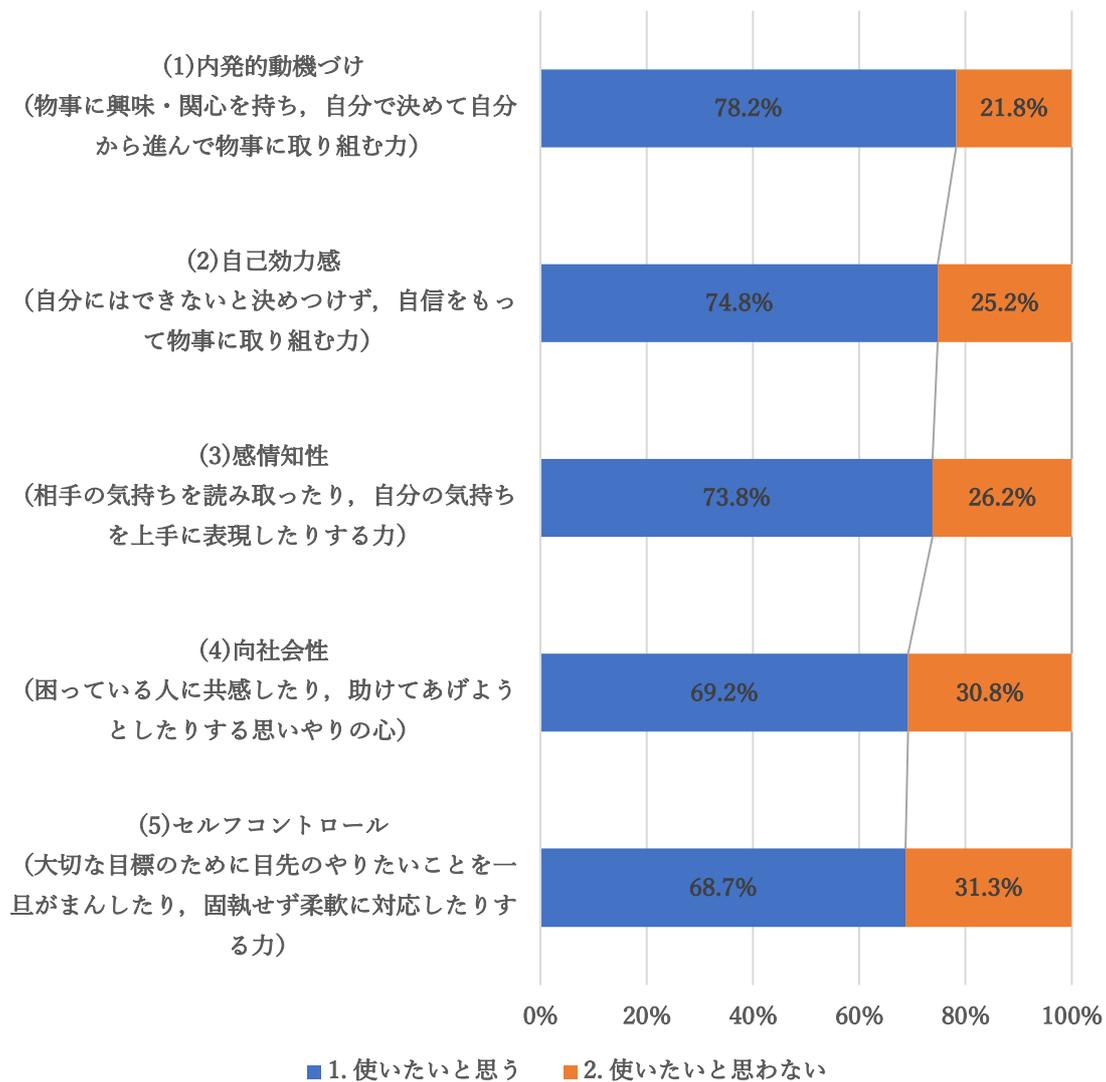


図 23. (1) 「こうした力の育ちの見とり方について学べる, 先生向けの学習コンテンツ」を使いたいと思いますか? (%)

表 22. (1) 「こうした力の育ちの見とり方について学べる，先生向けの学習コンテンツ」
 を使いたいと思いますか？（集計値）

		1. 使いたい と思う	2. 使いたい と思わない	計
(1)内発的動機づけ	回答数	320	89	409
	%	78.2%	21.8%	100%
(2)自己効力感	回答数	306	103	409
	%	74.8%	25.2%	100%
(3)感情知性	回答数	302	107	409
	%	73.8%	26.2%	100%
(4)向社会性	回答数	283	126	409
	%	69.2%	30.8%	100%
(5)セルフコントロール	回答数	281	128	409
	%	68.7%	31.3%	100%

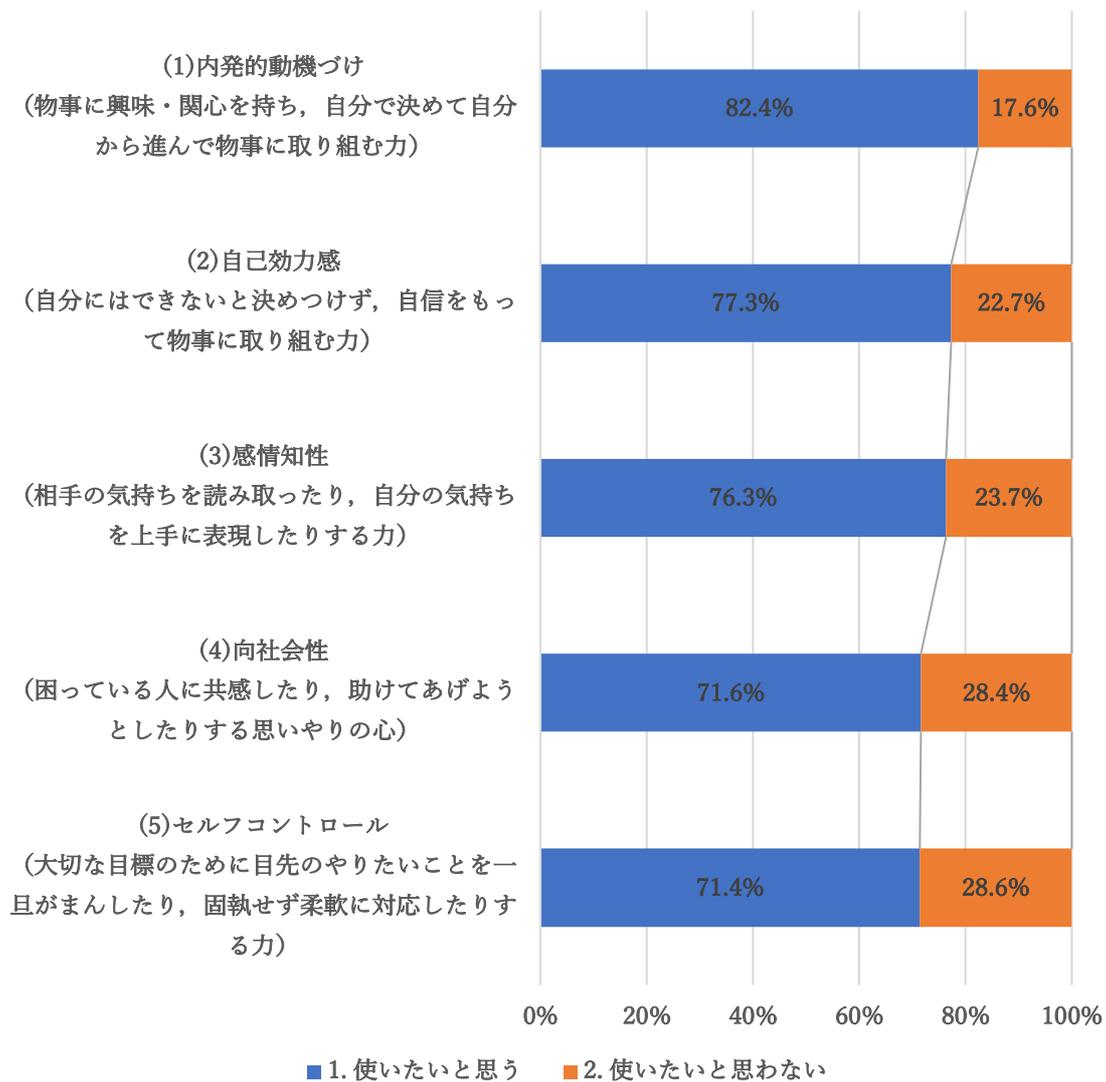


図 24. (2) 「こうした力の育ちを助ける具体的な言葉かけの方法について学べる、先生向けの学習コンテンツ」を使いたいと思いますか？ (%)

表 23. (2) 「こうした力の育ちを助ける具体的な言葉かけの方法について学べる，先生向けの学習コンテンツ」を使いたいと思いますか？（集計値）

		1. 使いたい と思う	2. 使いたい と思わない	計
(1)内発的動機づけ	回答数	337	72	409
	%	82.4%	17.6%	100%
(2)自己効力感	回答数	316	93	409
	%	77.3%	22.7%	100%
(3)感情知性	回答数	312	97	409
	%	76.3%	23.7%	100%
(4)向社会性	回答数	293	116	409
	%	71.6%	28.4%	100%
(5)セルフコントロール	回答数	292	117	409
	%	71.4%	28.6%	100%

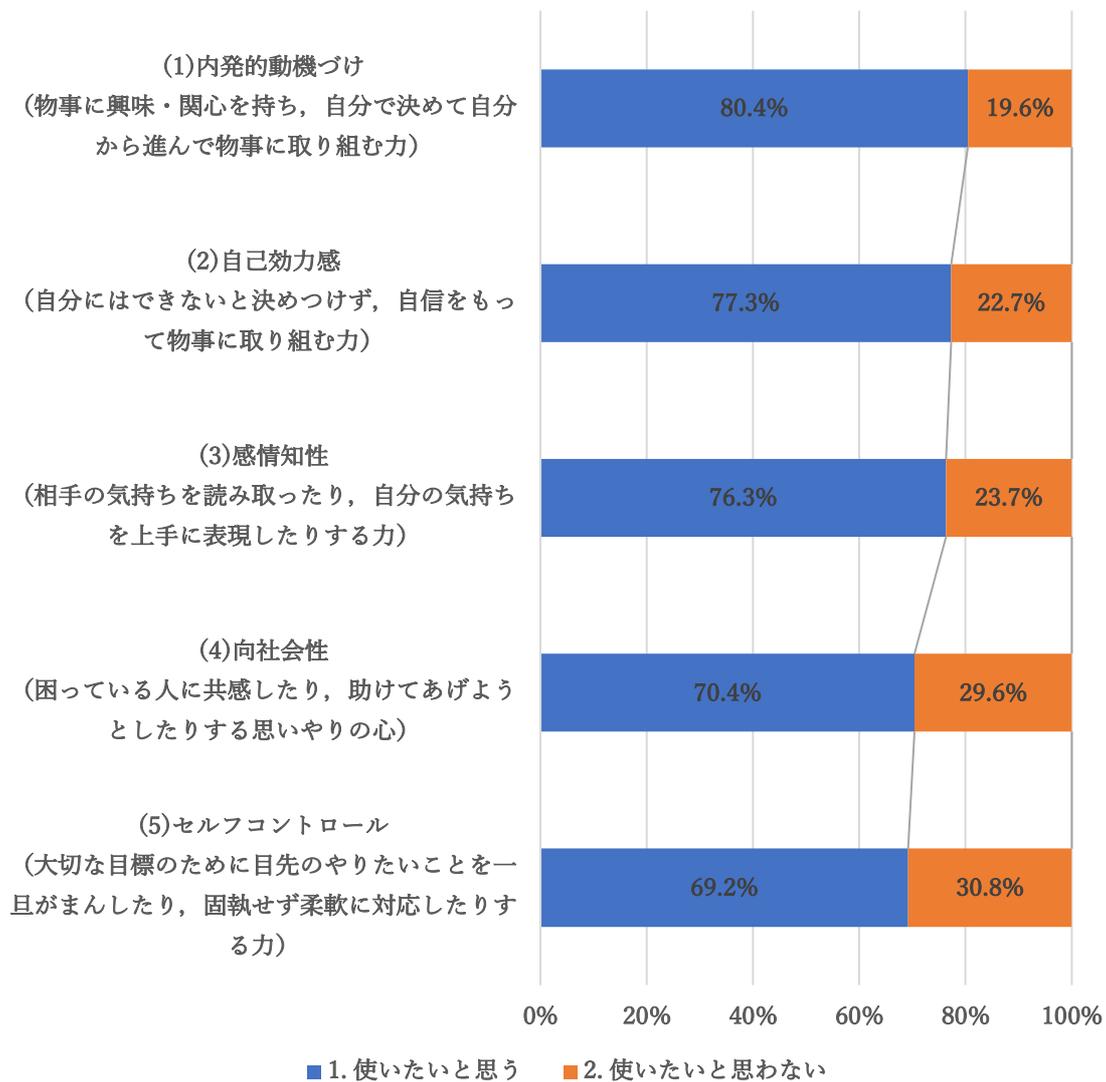


図 25. (3) 「こうした力の育ちを助ける具体的な活動案／カリキュラム」を使いたいと思いますか？ (%)

表 24. (3) 「こうした力の育ちを助ける具体的な活動案／カリキュラム」を使いたいと思
いますか？（集計値）

		1. 使いたい と思う	2. 使いたい と思わない	計
(1)内発的動機づけ	回答数	329	80	409
	%	80.4%	19.6%	100%
(2)自己効力感	回答数	316	93	409
	%	77.3%	22.7%	100%
(3)感情知性	回答数	312	97	409
	%	76.3%	23.7%	100%
(4)向社会性	回答数	288	121	409
	%	70.4%	29.6%	100%
(5)セルフコントロール	回答数	283	126	409
	%	69.2%	30.8%	100%

7.7.5. 子どもの興味・関心に関するツール・サービスに対するニーズ

Q28. 次のようなツールやサービスがあったら園の中で使いたいと思いますか？

子どもの興味・関心に関するツール・サービスに対するニーズについて、お尋ねしました。回答の集計結果を図 26・表 25 に示します。

「Q28. 次のようなツールやサービスがあったら園の中で使いたいと思いますか？」への回答として「1.使いたいと思う」と選択した人の割合が多いのは、「(3)子ども自身が、日々の生活の中での発見や驚き、興味・喜びなどを写真や動画で記録し、先生や保護者と共有できる記録ツール」(72.1%)、次いで「(1)子どもの興味・関心を先生が記録し、他の先生や保護者と共有できる記録ツール」(71.9%)、「(2)子どもの興味・関心にあわせて、教材・プログラムがおすすめされるサービス」(56.5%)でした。

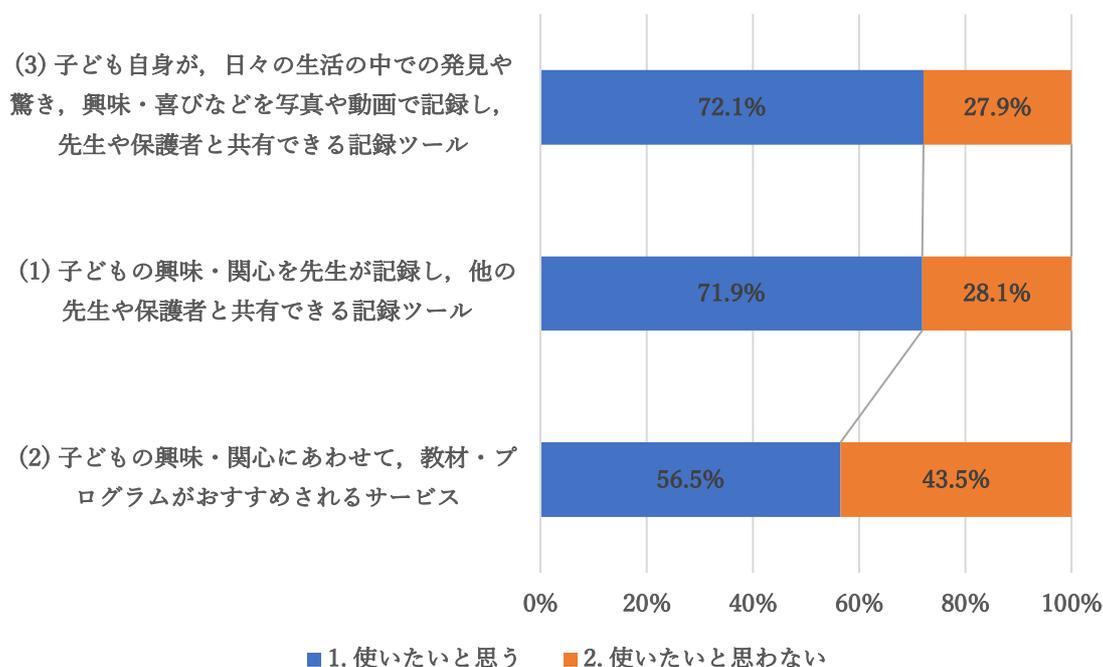


図 26. 次のようなツールやサービスがあったら園の中で使いたいと思いますか？ (%)

表 25. 次のようなツールやサービスがあったら園の中で使いたいと思いますか？(集計値)

	回答数			%		
	1. 使いたいと思う	2. 使いたくないと思う	計	1. 使いたいと思う	2. 使いたくないと思う	計
(1) 子どもの興味・関心を先生が記録し、他の先生や保護者と共有できる記録ツール	294	115	409	71.9%	28.1%	100%
(2) 子どもの興味・関心にあわせて、教材・プログラムがおすすめされるサービス	231	178	409	56.5%	43.5%	100%
(3) 子ども自身が、日々の生活の中での発見や驚き、興味・喜びなどを写真や動画で記録し、先生や保護者と共有できる記録ツール	295	114	409	72.1%	27.9%	100%